

2023 年度

青山学院大学審査学位論文

指導教員 澤田 淳 教授

コーパスを用いた「ていく」「てくる」「ている」、  
及び、その敬語形「ていらっしゃる」に関する研究  
A Corpus Study of the Auxiliary Verbs "*te-iku*," "*te-kuru*," "*te-iru*,"  
and their Honorific Form, "*te-irassharu*," in Modern Japanese

文学研究科

日本文学・日本語専攻

氏 名

BAIERNA TAYIER

## 目次

第 1 章.....	1
序論.....	1
1.1. はじめに.....	1
1.2 先行研究 .....	2
1.2.1 「行く」「来る」の研究.....	2
1.2.2 「ていく」「てくる」の研究 .....	5
1.2.3 「(て) いらっしゃる」の研究.....	8
第 2 章.....	18
研究方法 .....	18
2.1 はじめに .....	18
2.2 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ) の中納言における分析.....	18
2.3 PYTHON と COLABORATORY .....	21
2.3.1 PYTHON の基礎.....	22
2.3.2 テキストファイルの入出力 .....	22
2.3.3 文字列関数による CSV ファイル処理 .....	23
2.3.4 IF 文による条件分岐 .....	23
2.3.5 FOR 文による繰り返し.....	24
2.3.6 PYTHON のバージョン.....	25
2.3.7 PYTHON での分析.....	26
第 3 章.....	30
「ていく」「てくる」「ている」の前項動詞の種類.....	30
3.1 はじめに .....	30
3.2 「ていく」「てくる」「ている」の分析.....	30
3.2.1 短単位語彙表の分析.....	32
3.2.2 語彙表による「ていく」「てくる」「ている」の数値.....	36

3.3 「ていく」の前項動詞の分析 .....	38
3.4 「てくる」の前項動詞の分析 .....	42
3.5 「ている」の前項動詞の分析 .....	47
3.6 まとめ .....	55
<u>第4章 .....</u>	<u>56</u>
<u>「ていらっしゃる」の前項動詞の種類 .....</u>	<u>56</u>
4.1 はじめに .....	56
4.2 「ていらっしゃる」の前項動詞の種類 .....	56
4.3 「ていらっしゃる」における意味の偏り .....	68
4.4 まとめ .....	76
<u>第5章 .....</u>	<u>78</u>
<u>結論 .....</u>	<u>78</u>
<u>謝辞 .....</u>	<u>82</u>
<u>参考文献 .....</u>	<u>83</u>
<u>関連 URL .....</u>	<u>85</u>
<u>付録「ていく」「てくる」「ている」全体割り算結果 .....</u>	<u>86</u>



## 第1章

### 序論

#### 1.1. はじめに

本研究は、現代日本語の「ていく」「てくる」「ている」、及び、その敬語形「ていらっしゃる」について考察する。

従来、日本語の「ている」と「ていく」「てくる」は、それぞれ、独立した形で研究が進められてきた。しかし、「ていく」「てくる」「ている」は一つのセットをなしており、これら三者を関連づけて研究を行うことによって、新たな知見が得られることが期待できる（拜尔娜 2022）。このような研究の方向性を示した先駆的研究に近藤（1986、2000）がある。近藤（2000）は、「ていく」「てくる」「ている」が敬語形では「ていらっしゃる」となり、この三者は敬語化されることにより、その意味の区別が失われる（中和する）点を指摘している。〈テイク〉〈テクル〉〈テイル〉が尊敬語になると「ていらっしゃる」という同一の語形に中和するという事実は、これら三者が深いところで通底する性質を持つことを示唆しており、これらをセットとして研究する意義がある。

本研究では、現代日本語の書き言葉資料として現在もっともよく用いられている『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下、BCCWJ）を利用し、以下の2点の課題について考察を行う。

- (1) 課題1：「ていく」「てくる」「ている」、及び、その敬語形「ていらっしゃる」は、それぞれ、どのような動詞と結びつきやすいのか。

課題2：一般に、「ていっしゃる」は、<テイク><テクル><テイル>の尊敬語とされるが、実際の使用においてはどうか。

本論文の構成は以下の通りである。第1章では、本研究の研究背景および目的について述べる。第2章では、BCCWJを用いた検索とPython言語を用いた処理の方法について論じる。第3章では、第2章で示した研究手法によって得られた「ていく」「てくる」「ている」の用例データについて、主に前接動詞の種類に注目して分析を行う。第4章では、敬語形「ていっしゃる」について分析を行う。ここでは、特に、「ていっしゃる」がどのような動詞と結びつきやすいのかについて明らかにするとともに、「ていっしゃる」の意味領域が<テイク><テクル><テイル>に縮小されている点を明らかにする。最後の第5章では、本研究の結論を述べ、今後の展望を示す。

## 1.2 先行研究

本節では、「行く／来る」、「ていく／てくる」、「いっしゃる」の先行研究を概観することで、第2章以降の考察の足がかりとしたい。

### 1.2.1 「行く」「来る」の研究

はじめに、「行く」「来る」の研究を概観する。大江（1975）は、英語の come/go との対照の観点から、日本語の「行く／来る」を次のように特徴づけている。

(2) a. ヌク、go

話し手または他者が話し手のホームベースを出発して動く。その動きを話し手が出発点から眺め、描く。

b. クル、come

話し手が自らのホームベースに位置し、話し手または他者の動きをその場所（到達点）への動きとして眺め、描く。

- c. come—聞き手—結局は聞き手の視点をとる話し手—が聞き手のホームベースに位置し、ある動きをその場所（到達点）への動きとして眺め、描く。

（大江 1975: 45）

ここでの記述が示すように、「行く／来る」では、話し手の「視点」が関与する。

この「視点」の概念を「共感度」（empathy）という観点から捉え直したのが久野（1975）である。久野（1978）では、「視点制約」の観点から、「来る」「行く」の使い分けに関して、以下のような一般化を提示している。（E は empathy（共感度）の略語）。

### （3）「来ル・行ク」の視点制約

#### A. 話し手が動く主体である場合

発話場所が到達点であれば、「来ル」、出発点であれば「行ク」が用いられる。

#### B. 話し手が動く主体でない場合

「来ル」 発話の時点、或いは動きの動作の起きる（起きた）時点に到達点にいる（いた）（動きの主体以外の）人に話し手の視点が接近している時用いられる。

$E$ （到達点側の人） $>$  $E$ （動きの主体。出発点側の人）

「行ク」 その他の場合に用いられる。

$E$ （動きの主体。出発点側の人） $\geq$  $E$ （到達点側の人）

（久野 1978: 253-255）

上記の久野（1978）の「行く／来る」の一般化を修正・発展させる形で、澤田（2018）では、「行く／来る」について次の選択原理を提示している。

(4) 現代日本語（共通語）の「行く／来る」の語用論的な選択原理

I：話し手が移動主体である場合

通例、発話場所が到達点であれば「来る」、到達点以外であれば「行く」が選択される。

II：他者が移動主体である場合

i. 話し手の物理的位置によって決まる場合：

話し手が、発話時、移動時のいずれか（またはその両方）において、到達点にいる場合は「来る」が選択される。一方、話し手が、発話時、移動時のいずれか（またはその両方）において出発点におり、かつ、話し手が、発話時、移動時のいずれにおいても到達点にいない場合は「行く」が選択される。

ii. 話し手の物理的位置以外の要因によって決まる場合：

- a. 親近感：移動主体よりも到達点側の人のほうが話し手にとって心理的に近い人である場合は「来る」、到達点側の人よりも移動主体のほうが話し手にとって心理的に近い人である場合は「行く」が選択されやすい。
- b. 話題性：移動主体よりも到達点側（の人や場所）のほうが談話上、際立った対象である（話題性が高い）場合は「来る」、到達点側（の人や場所）よりも移動主体のほうが談話上、際立った対象である（話題性が高い）場合は「行く」が選択されやすい。
- c. 注意の焦点：移動主体（の動き）よりも到達点側（の人や場所）のほうに話し手の視覚的注意が向けられている場合は「来る」、到達点側（の人や場所）よりも移動主体（の動き）のほうに話し手の視覚的注意が向けられている場合は「行く」が選択されやすい。
- d. ホームベース：到達点話し手のホームベースであり、話し手が移動主体を自身のホームベースで受け入れる意識を持っている場合は「来る」、到達点話し手のホームベースでなかったり、到達点話し手のホームベースであって



も話し手が移動主体を自身のホームベースで受け入れる意識が希薄な場合は「行く」が選択されやすい。

### III：話し手と他者が共に移動主体となる場合

- i. 目的地が直示移動動詞の補部（着点項）として現れていない場合：話し手が他者（聞き手や第三者）を随えて移動する場合は「来る」、（どちらかがどちらかを随えるというのではなく）両者が単に連れ立って移動する場合は「行く」が選択される。
- ii. 目的地が直示移動動詞の補部（着点項）として現れている場合：目的地が、話し手のホームベースである場合は「来る」、話し手のホームベースでない場合は「行く」が選択される。

（澤田 2018: 197）

澤田（2018）では、「話し手が移動主体である場合」、「他者が移動主体である場合」（それぞれ、久野（1978）の「話し手が動く主体である場合」、「話し手が動く主体でない場合」に相当）の「行く／来る」に加えて、さらに、「話し手と他者が共に移動主体となる場合」の「行く／来る」にも記述が及んでいる点特徴的である。上記の整理をもとに、澤田（2018）は、「「来る」、「行く」には、それぞれ、話し手の視点が到達点に置かれているか、到達点以外に置かれているかといった視点の違いが反映されているが、話し手はそのような視点の選択を、種々の語用論的要因（語用論的状况）を考慮に入れることによって決定している」と結論づけている。また、「このような語用論的要因の適用の仕方や適用の範囲は言語間で均一なわけではなく、このことが言語ごと（さらには、同一言語内における方言や時代ごと）の COME/GO の選択原理（使用条件）の相違となって現れているとみることができる」と述べている。

#### 1.2.2 「ていく」「てくる」の研究

「ていく」「てくる」の研究は多いが、ここでは、森田（1994）と澤田（2016）を概観する。

森田（1994）は、「ていく」「てくる」の用法を次のように整理している。

- (5) a. 移動を表す
- i 動作・行為の順次性を表す (集めて～、洗って～、言っで～、など)
  - ii 平行して行うことを表す ( (駅まで) 送って～、抱いて～、連れて～、など)
  - iii 移動するときの状態を表す (歩いて～、泳いで～、駆けて～、など)
  - iv 複合して1つの動作・作用を表す (上がって～、降りて～、落ちて～、など)
- b. 時間的継続を表す (生きて～、暮らして～、忍んで～、など)
- c. 消滅を表す (失われて～、消えて～、死んで～、など)
- d. 変化を表す (変わって～、 (夜が) 明けて～、薄らいで～、など)
- (森田 1994:90-96)

澤田 (2016) では、「てくる」の用法を次のように整理している。

- (6) a. ここまでバスに乗ってきた。 (同時移動)
- b. 駅前でパンを買ってきた。 (継起移動)
- c. ナイフを持った男が近づいてきた。 (移動の方向づけ)
- d. これまで30年間この会社で働いてきた。 (継続型アスペクト)
- e. 川の水嵩がだんだん増えてきた。 (変化型アスペクト)
- f. 急に雨が降ってきた。 (非意図的事象の出現)
- g. 太郎が僕に本を送ってきた。 (行為の方向づけ)
- (澤田 2016:87)

澤田 (2016: 88) によれば、各用法の特徴は次の通りである。「同時移動」では、前項動詞が「くる」と同時進行の行為を表し、「くる」の移動の様態や手段、経路位置関係を表す。「継起移動」では、前項動詞が「くる」以前に起こる行為を表し、「くる」との間の継起的な関係を表す。「移動の方向づけ」では、前項動詞が主体の位置変化を表し、「くる」が主語の移動の話者領域への方向づけを表す。「継続型アスペクト」では、前項動詞が主に行為を表し、「くる」がその事象の現在時に至るまでの継続的な展開を表す。「変化型アスペクト」では、前

項動詞が漸次的変化を表し、「くる」がその変化の始動や開始を表す。「非意図的事象の出現」では、前項動詞が非意図的事象を表し、「くる」が非意図的事象の出現や発生を表す。「行為の方向づけ」では、前項動詞が行為を表し、「くる」が主語の行為の話者領域への方向づけを表す。なお、澤田（2016: 88）では、上記の用法のうち、「非意図的事象の出現」と「行為の方向づけ」には、基本的に、「てくる」の対応形としての「ていく」がない点も指摘している。

澤田（2016: 88）によれば、これら7種の「てくる」は、「空間移動型」と「非空間移動型」に大別される。すなわち、「空間移動型」は、主語による空間移動が（用法間で程度差はあるが）認められるタイプであり、「同時移動」「継起移動」「移動の方向づけ」の用法が含まれ、一方、「非空間移動」は、主語による空間移動は認められないタイプであり、「継続型アスペクト」「変化型アスペクト」「非意図的事象の出現」「行為の方向づけ」の用法が含まれるとされる。

ここで、森田（1994）と澤田（2016）の対応関係を整理すると、澤田（2016）の「同時移動」は森田（1994）の「平行して行うことを表す」用法と「移動するときの状態を表す」用法を包含する用法であり、澤田（2016）の「継起移動」、「移動の方向づけ」、「変化型アスペクト」、「継続型アスペクト」は、それぞれ、森田（1994）の「動作・行為の順次性を表す」用法、「複合して1つの動作・作用を表す」用法、「変化を表す」用法、「時間的継続を表す」用法に対応する。なお、森田（1994）の「消滅を表す」用法に対応する用法は、上記の澤田（2016）の整理には見られないが、これは、澤田（2016）の上記の整理が「てくる」を対象とするためである。一方、澤田（2016）の「行為の方向づけ」用法に相当する用法は、森田（1994）では認められないが、この用法の「てくる」は、日本語において生産的に用いられており、注目すべき用法と言える。

(7) 太郎が僕に本を送ってきた。 （行為の方向づけ：物の移送、授与）

(8) ヤクザが私を脅してきた。 （行為の方向づけ：行為の直接的受影）

(9) 会社が給料を減らしてきた。 （行為の方向づけ：行為の間接的受影）

（澤田 2016: 89）

### 1.2.3 「(て) いらっしゃる」の研究

ここでは、現代語の敬語動詞「(て) いらっしゃる」について扱っている先行研究を概観する(ここでは、古典語の敬語動詞を扱っている研究にも触れる)。

近藤(2000)が指摘するように、「(て) いらっしゃる」は、「(て) いる」「(て) いく」「(て) くる」のいずれの解釈も可能な動詞である。

- (10) a. 先生は校庭で走っていらっしゃるらしい。(「ている」解釈)  
b. 先生はこれから学校まで歩いていらっしゃるそうだ。(「ていく」解釈)  
c. 先生があちらから歩いていらっしゃった。(「てくる」解釈)  
(近藤 2000: 531)

上記の例をもとに、近藤(2000: 531)では、「なぜ「ている」と「てゆく」「てくる」のように異なった意味を持つと思われる語が、同じ尊敬形を持つのであろうか」という問題を設定し、この問題に対して以下の解答を示している。

- (11) 結論から先に言えば、この三つの語はもともと同一の意味であるからだと考える。それを以下に説明してみよう。

まず、このトリオとなる語は次のようにまったく同じ動作を描写する時に用いることができる。例えば、ある人物(A君)が運動場を走行中であると考えよう。それを述べるのに、遠くから観察している人は「A君が走っている」というであろう。それに対して、運動場に立ってA君の進行方向前方から観察している人は「A君が走ってくる」と言うと考えられる。逆にA君が遠ざかってゆく地点から観察している人は「A君が走ってゆく」というのが自然である。

すなわちこのトリオは恐らく次の点で異なっているのであると思う。

- ・ A てゆく…進行方向が、話し手から遠ざかるむきである
- ・ B てくる…進行方向が、話し手に近づくむきである
- ・ C ている…進行方向を話し手は意識していない

しかしながら、実際には、話し手が同じ地点から見ていても、そのときの気持ちでA B Cいずれの語を用いることもできるのであり、これらは単に話し手の主観的な使い分けにすぎない。また「てゆく」「てくる」のみならず「ている」も、方向性を意識しないという意味において主観的な表現であると認定される。この意味でA B Cはいずれも客観的な意味としては単に動作の進行中であることを示すにすぎず（すなわち、従来、継続のアスペクトといわれてきたものに該当する）それが主観的な差異によって別の形になったもの、別の言葉で言えば継続アスペクトの交替形であると言えるであろう。これが、先にこのトリオは同じ意味であると言ったことの内容である。

(近藤 2000: 531-532)

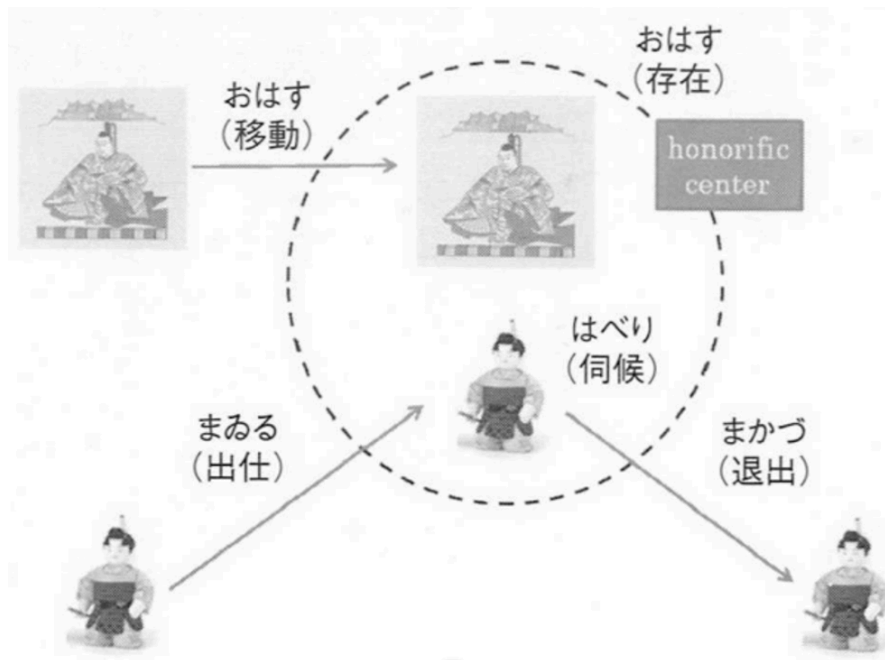
さらに、近藤（2000: 483）では、古典語の敬語動詞「おはす」「まゐる」についても考察を行っている。古典語の「おはす」「まゐる」も、現代語の「いらっしゃる」「まゐる」と同様に、〈行く〉と〈来る〉の両方の意味を持つ動詞である（「おはす」は、「いらっしゃる」と同様、さらに〈いる〉の意味も持つ）。すなわち、近藤（2000: 483）が指摘するように、「行く」と「来る」は、「尊敬語においても、謙譲語においても、敬語化されることによってその区別を失い、単一の動詞で表わされるようになる」のである。

金水（2004、2010）は、近藤（2000）を発展させる形で、「まかづ」「はべり」などの語彙項目を加えた体系を提示している。

表 1-1:金水（2010: 76）

	移動	存在
中立	ゆく／く	あり
謙譲	まゐる（出仕）／まかづ（提出）	はべり
尊敬	おはす	おはす

図 1-1:金水 (2010: 76)



ここでは、敬意の対象者（尊者）が中心となって、移動・存在の体系が示されている点に注目したい。たとえば、金水（2010）によれば、「「おはす」が移動でも存在でも語彙項目を変えない」のであるが、これは、「敬意の対象者がいわばシステムの絶対的中心であり、中心であるが故に移動と静止と区別しないということと解釈できる」としている。

続いて、現代語「いらっしゃる」に生じている意味領域の縮小化の現象について論じた水谷（2005）の研究を見てみよう。水谷（2005）は、アンケート調査と小説の実例調査をもとに、次のような知見を示している。

- (12) <行く><来る><いる>の尊敬語形式について、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県に生育し居住する 20 歳以上の 146 人を対象にしたアンケート調査と、東京出身作家 76 人（76 冊）の小説を用いた調査を行い、「イラっしゃる」は、表すとされてきた<行く><来る><いる>それぞれの意味で用いられるのではなく、<来る><いる>としては使用され続けているが、<行く>には用いられなくなりつつあることを明らかにした。この変化の主要な要因としては、「イラっしゃる」は敬意によって動

作主の移動の方向を中和するよりも、話し手が自身の関わる移動を、優先して表すようになったことにあるとした。そのために、「イラッシャル」が表す移動は、話し手（の視点）の位置が動作主の到達点となる<来る>になり、移動を表すことを同じくしながら、話し手の関わりが大きくない<行く>は「イラッシャル」の意味領域から排除されるとなった。

(水谷 2005 : 32)

水谷 (2005) は、上記の点を、アンケート調査と小説調査の2点から実証している。以下、それぞれについて紹介してみよう。

アンケート調査として、水谷 (2005) は、次の表に示すような東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の6歳から現在までの在住者（外住歴4年以内）の中の敬語を習得した20歳以上を対象としている。

表 1-2:水谷 (2005 : 33)

	東京		神奈川		千葉		埼玉		計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	総計
20代 (学生)	12	7	1	1	1	3	10	2	24	13	37
20代 (社会人)	14	21	6	3	2	0	19	6	41	30	71
30代	2	2	1	0	0	0	1	1	4	3	7
40代	1	1	0	0	0	0	3	1	4	2	6
50代	4	7	0	0	0	0	1	8	5	15	20
60代	2	0	0	0	0	0	1	0	3	0	3
70代	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	2
計	35	39	8	4	3	3	36	18	82	64	146

(単位：人)

アンケートの内容は下記の通りである (水谷 2005)。

表 1-3：水谷（2005：34）

<p>普段接している目上の方（学校の先生，職場の上司など）に対して，以下の下線部を，敬語でどのようにいうか選択肢に○をつけてください。</p> <p>2つ以上ある場合は，使用順に1.2.3…をつけてください。<sup>注5</sup></p> <p>1.（先生・上司の家に電話をかけて）「今日は家に<u>いるか</u>？」</p> <p>a. いらっしゃいますか b. おられますか c. いられますか d. おいでになりますか e. その他( )</p> <p>2. 「明日もここに<u>来るか</u>？」</p> <p>a. いらっしゃいますか b. こられますか c. おいでになりますか d. おみえになりますか e. その他( )</p> <p>3. 「これから，病院に<u>行くのか</u>？」</p> <p>a. いらっしゃるの（ん）ですか b. いかれるの（ん）ですか c. おいきになるの（ん）ですか d. おいでになるの（ん）ですか</p>
--

表 1-4：水谷（2005：34）

<p>質問文についてどのように思うか，当てはまるものに一つ○をつけてください。</p> <p>1. 「どこに<u>行くのか</u>」の敬語で「どこに<u>いらっしゃるの（ん）</u>ですか」</p> <p>a. 使う b. 自分は使わないが，おかしくない c. 自分は使わないし，違和感がある</p>
--

上記の2つのアンケート調査から、水谷（2005）は、以下の観察を示している。

まず、表 1-2 の調査からは、(i) <いる>には「イラッシャル」が世代を問わず、選択されているのが目立つ点、(ii) <来る>は 40 代以上では「オミエニナル」「オイデニナル」「イラッシャル」が選ばれており、30 代以下では「イラッシャル」が最も選択されている点、(iii) <行く>では顕著な世代差が現れ、50 代あたりを境にし「イラッシャル」と「イカレル」に分かれる結果となっている点が指摘されている。

さらに、表 1-3 の調査からは、次の図が示す通り、40 代～70 代では「使う」「違和感はない」と合わせると、<行く>としての「イラッシャル」は約 8 割の「支持」を得ているのに対して、20 代、30 代では、「違和感がある」が約半数を占める結果となった点を指摘している（水谷 2005：36）。

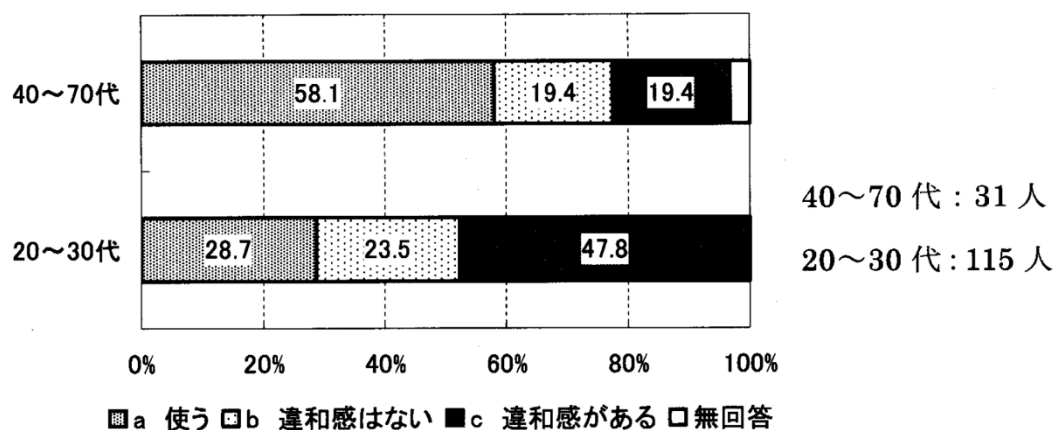


図 1-2 : 水谷 (2005 : 35) (30 代~70 代アンケート調査結果)

年齢	行く			来る				いる		
	イラ	イカ	オイデ	イラ	コラ	オイデ	オミエ	イラ	オラ	オイデ
76	●			●				●		
71						●				
61	●					●				●
60	●				●			●		
60						●				●
59		●		●				●		
58	●						●	●		
58	●			●				●		
58		●			●			●		
55		●				●		●		
55							●	●		
55			●				●	●		
55	●			●				●		
53	●			●				●		
53	●					●				●
53			●			●				●
53	●				●			●		
51	●					●				●
51			●				●			●
51	●						●			●
50	●			●				●		
50	●			●				●		
50		●					●		●	
50		●			●			●		
50		●		●				●		
47			●				●	●		
43		●					●	●		
43			●				●		●	
43	●						●	●		
42		●			●					●
40				●				●		
36	●			●				●		
34		●		●				●		
34			●			●		●		
33		●		●				●		
31		●					●	●		
30			●	●				●		
30			●	●				●		

注：「イラ」は「イラッシャル」，「イカ」は「イカレル」，「コラ」は「コラレル」，「オラ」は「オラレル」，「オミエ」は「オミエニナル」，「オイデ」は「オイデニナル」を表す。

図 1-3：水谷（2005：36）「どこにいらっしゃるの（ん）ですか」の受容意識



上記のアンケート調査に加えて、水谷（2005）は東京出身作家（双葉亭四迷（1864 生）から本多孝好（1971 生）までの 76 人（76 冊）の作家）の小説の会話文から<行く><来る><いる>の尊敬語形式の用例 1260 例を収集し、尊敬語形式ごとの用例数を示している。

表 1-5：水谷（2005：37）

	イラッシャル	レル	オイデ類	ミエル	その他	計
行く	139	76	26	0	0	241
来る	363	83	93	148	13	700
いる	211	57	34	0	1	303
意味あいまい	13	0	3	0	0	16
計	726	216	156	148	14	1260

（単位：例）

ここでの調査から、水谷（2005）は、次の観察を示している。

- (13) 「イラッシャル」が、〈来る〉〈いる〉としては双葉亭四迷以降、明治、大正、昭和の作家に、ほとんど絶え間なく使用されていることがわかる。一方、「イラッシャル」が〈行く〉としては、大体 1930 年代（昭和 10 年代半ば）生まれまでの作家には、その使用が見られる。しかし 1940 年代以降の生まれの作家になると、「イラッシャル」を〈行く〉の意味で使用する作家は、それ以前に比べて、明らかに少なくなっている。

1940 年代生まれの作家以降に変化が生じた理由としては、「イラッシャル」の代替形となる「レル」定着の時代が考えられる。金田（1952）では、尊敬語形式「レル」は東京においては、昭和 10 年代（1935 年～1944 年）ごろから使用が増えてきたとされている。1940 年代以降に生まれた作家が尊敬語を使う頃には、東京における尊敬語として、代替形「レル」が一般的になってきたために、「イラッシャル」における変化を生じられることができた可能性がある。

（水谷 2005: 38）

- (14) 「アンケート調査と小説調査の結果は「イラッシャル」が〈来る〉〈いる〉として用いられ続けている一方で、〈行く〉には見られなくなる傾向を共通に示している。ここから、「イラッシャル」は、従来考えられてきた〈行く、来る、いる〉という意味領域から、〈行く〉を含まない〈来る、いる〉という意味領域へ縮小しつつあると言える。

（水谷 2005: 40）

水谷（2005）の調査から、本動詞「いらっしゃる」が、移動においては「来る」の尊敬語になりつつあるという興味深い変化が認められる。なお、この点については、田邊・小池（2020:114）でも、「現在では、「いらっしゃる」より「いかれる」の方が、一般的であると言ってもよいくらい様々な状況で頻繁に使われている」点がアンケート調査とコーパス調査の両面から実証されている。

水谷（2005）の知見を踏まえ、澤田（2015: 69）では、「いらっしゃる」の変化について、さらに別の観点を付け加えた考察を行っている。澤田（2015）によれば、〈行く〉の意味としての「いらっしゃる」の許容度は、「人称場面」

（「第三者場面」か「対者場面」か）にも左右され得るという（澤田（2015）は、日高（2009）の用語に従い、発話現場に居合わせない第三者を話題の人物とする場面を「第三者場面」、直接の会話の相手を話題の人物とする場面を「対者場面」と呼んでいる）。

- (15) 筆者は、「行く」の意味での「いらっしゃる」を使う 30 代の話者であるが、対者場面での使用には違和感がないが、第三者場面での使用にはやや違和感がある（筆者と同様の内省を持つ話者を複数確認している）。この点は今後さらに詳しい調査が必要であるが、「いらっしゃる」における「行く」「来る」の中和（「いらっしゃる」の「行く」の意味での使用）は、第三者場面よりも対者場面で維持されやすいと考えられる。これは、日高（2009）の方言授与動詞の議論と興味深い平行性を持つ。日高（2009: 16-17）は、人称的方向性の区別なく「くれる」または「やる」を用いる方言において、授与動詞の視点制約が、発話現場依存的解釈が可能な対者場面では中和し、発話現場依存的な解釈ができない第三者場面では顕在化するという現象（「現場性制約」）を挙げている。日高の「現場性制約」は、「いらっしゃる」にも適用可能な一般性の高い原理であると考えられる。

（澤田 2015: 69-70）

なお、澤田（2015: 91）は、大学生（学部生）57 名（主に青山学院大学文学部日本文学科在籍。年齢層：10 代～20 代。主に関東圏出身）を対象にした容認度調査の結果も示している。

- (16) **質問**：以下の例文の「いらっしゃる」の使い方について、a. 自然、b. やや不自然、c. 不自然の中から当てはまるものを 1 つ選んでください。
- (i) （「どこに行くのか」の敬語で。聞き手＝山田先生の研究室に所属する大学院生）
- 山田先生はこれからどちらにいらっしゃるんですか？

- a. 自然：12 人
- b. やや不自然：38 人
- c. 不自然：7 人

(ii) (「どこに行くのか」の敬語で。聞き手=先生)  
先生はこれからどちらにいらっしゃるんですか？

- a. 自然：19 人
- b. やや不自然：31 人
- c. 不自然：7 人

(澤田 2015: 91)

澤田 (2015: 91) では、「今回の調査結果からは、両文の容認度についてさほどはっきりした相違は見られなかったが、(i) の第三者場面よりも (ii) の対者場面のほうが「いらっしゃる」の使用を自然と回答した者の数がやや多かった」という点が指摘されている。澤田 (2015) の研究では、「いらっしゃる」の意味変化 (意味領域の縮小) が「人称場面」に応じて段階的に生じているとする点が示唆的である。

以上のように、従来の研究では、本動詞「いらっしゃる」について詳細な調査がなされているが、管見の限り、補助動詞「ていらっしゃる」については詳しい考察はなされていない。本研究では、BCCWJ に基づくコーパス調査から「ていらっしゃる」の使用実態を調査し、補助動詞「ていらっしゃる」においては、本動詞「いらっしゃる」以上に意味領域の縮小化が進行している可能性を示す。

## 第2章

### 研究方法

#### 2.1 はじめに

本研究では、国立国語研究所の中納言システムで検索できる『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』を用いて検索を行う。検索には、「短単位検索」で語彙素検索を用い、言語処理には、Python 言語を用いる。また Python でのプログラミング環境としては、Google Colaboratory 環境で処理を行う。予め処理の具体的手順の概要を示すと次のようになる。

- (17) 1. BCCWJ から「ていく」「てくる」「ている」それぞれに前置する動詞の用例を文脈つきで抜き出し、それぞれの合計数を求める。
2. 「ていく」「てくる」「ている」のそれぞれに前接する動詞について、BCCWJ 全体での動詞の出現数で割ることによって、個々の動詞の出現割合に関わらない、純粋な「ていく」「てくる」「ている」での割合を求める<sup>1</sup>。

以下、この章では、BCCWJ 及び Python の概要と、それを用いたデータ抽出の手続きについて論じる。

#### 2.2 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 (BCCWJ) の中納言における分析

---

<sup>1</sup> なお、小数点の四捨五入の関係で、パーセントの合計が、100%になっていないものもあるが、ここでの議論には直接影響しないので、そのままの値で表記している。

本研究では、「ていく」「ていく」「ている」「ていらっしゃる」とそれらの前接動詞との接続を「中納言」により出力した（収集に際しては、文脈から明確に「ていく」「てくる」「ている」「ていらっしゃる」に相当するものであると認められるものを収集した）。検索には、「短単位検索」で語彙素検索を使ったが、「ていく」「てくる」「ている」「ていらっしゃる」の語彙素としての形を調査するために、文字列検索でそれぞれを検索し、その結果で語彙素形（「行く」「来る」「居る」「いらっしゃる」）を確定した。

以下、「ていく」「てくる」「ている」「ていらっしゃる」の順に、具体的な手順を示すことにする。

(18) 「ていく」の検索について：

- a. キーは「品詞」の「大分類」を「動詞」に設定、後方共起1は、キーから「1語」、「語彙素」が「て」AND「品詞」の「大分類」を「助詞」、「て」は「助詞」に指定。後方共起2は、キーから「2語」、「語彙素」が「行く」AND「品詞」の「大分類」を「動詞」に設定。
- b. 上記の設定に基づく検索により、102,476件となった。10万件以上となり、一括に全てのデータを得られないため、データを (i) 「出版・新聞」「雑誌」「書籍」「図書館」と (ii) その他のカテゴリーに分類した。その結果、「出版・新聞」「雑誌」「書籍」「図書館」は66,729件、その他は35,747件であった。

(19) 「てくる」の検索について：

- c. キーは「品詞」の「大分類」を「動詞」に設定、後方共起1は、キーから「1語」、「語彙素」が「て」AND「品詞」の「大分類」を「助詞」、「て」は「助詞」に指定。後方共起2は、キーから「2語」、「語彙素」が「来る」AND「品詞」の大分類を「動詞」に設定。
- d. 上記の設定に基づく検索により、175,241件となった。10万件以上となり、一括に全てのデータを得られないため、データを (i)

「出版・新聞」「雑誌」「書籍」「図書館」と(ii)その他のカテゴリーに分類した。その結果、得た検索合計数は173,628件である。そのうち、「出版・新聞」から「出版・書籍」までの件数が52,789件、「図書館・書籍」から「ベストセラー」までの件数が73,666件、その他が47,173件であった。

(20) 「ている」の検索について：

- a. キーは「品詞」の「大分類」を「動詞」に設定、後方共起1は、キーから「1語」、「語彙素」が「て」AND「品詞」の「大分類」を「助詞」、「て」は「助詞」に指定。後方共起2は、キーから「2語」、「語彙素」が「居る」AND「品詞」の大分類を「動詞」に設定。
- b. 上記の設定に基づく検索により、926,707件となった。10万件以上となり、一括に全てのデータを得られないため、データを(i)「出版・新聞」「雑誌」「書籍」「図書館」と(ii)その他のカテゴリーに分類した。分類後に得た検索合計数は915,209件である。これらは「出版・新聞」が7,713件、「出版・雑誌」が31,267件であった。また「出版・書籍」の件数は246,611件であったため、「出版・書籍」のカテゴリーをさらに細かく「動詞」、「助詞」、「助動詞」、「名詞」、「代名詞」、「形状詞」、「連体詞」、「副詞」、「接続詞」、「感動詞」、「形容詞」、「接頭詞」、「接尾詞」、「記号」、「補助記号」、「空白」に分類した。その結果、分類後の合計件数は247,186件であった。「出版・書籍」の分類は以下の通りである。
- c. 「動詞」148件、「助詞」49,294件、「助動詞」95,438件、「名詞」39,679件、「代名詞」467件、「形状詞」4,444件、「連体詞」332件、「副詞」82件、「接続詞」8件、「感動詞」5件、



「形容詞」233件、「接頭詞」352件、「接尾詞」16件、「記号」91件、「補助記号」55,988件、「空白」34件。

- d. 「図書館・書籍」の件数は295,065件であり、「図書館・書籍」の 카테고리も細かく「動詞」、「助詞」、「助動詞」、「名詞」、「代名詞」、「形状詞」、「連体詞」、「副詞」、「接続詞」、「感動詞」、「形容詞」、「接頭詞」、「接尾詞」、「記号」、「補助記号」、「空白」に分類した。その結果、合計件数は29,417件になった。「図書館・書籍」の分類は以下の通りである。
- e. 「動詞」172件、「助詞」60,333件、「助動詞」121,527件、ここで「助動詞」の件数が10万件を超えたため、さらに細かく分類したところ、「名詞」39,679件、「代名詞」467件、「形状詞」4,444件、「連体詞」332件、「副詞」82件、「接続詞」8件、「感動詞」5件、「形容詞」233件、「接頭詞」352件、「接尾詞」16件、「記号」91件、「補助記号」55,988件、「空白」34件となった。

次に、比較のため、非敬語の「ていく」「てくる」「ている」それぞれについて、前接動詞を中納言により機械的に出力し、Pythonプログラムによって延べ語数・異なり語数を集計した。以下、Python言語と Colaboratory の基礎を概観する。

### 2.3 Python と Colaboratory

本研究では、はプログラムとして、Python言語を用い、環境としては、Colaboratoryを採用した。Colaboratoryは、グーグルの提供するPythonのクラウド環境で、テキストとコード（プログラム）を一体のものとしてノートブックとして扱う。これはJupyterも同じである。作成した内容は「ノートブック」となり、自ら保存しなくても自動的にグーグルドライブにある自分のアカウントに保存される。しかし、プログラムで使われる入出力された内容はグーグルドライブ

に保存されず、操作結果のみ保存される。例えば一度保存したプログラムを次回操作する場合、入出力された内容がないため、操作結果では「エラー」と出る。

### 2.3.1 Python の基礎

はじめに、Python 言語の基礎<sup>2</sup>について概観する。

Python を使用する場合、さまざまな処理ができる。例えば、テキストのリスト化、グラフ化、そして関数や演算子の分析も行える。名前は「予約語」と称され、特別な意味を持つ。その上、利用者は、データを保存するための場所として、「変数」を作ることができ、その名前も自由に決めることが可能になっている。変数には、大きくわけて、文字列変数と数値変数とがある。また、変数を構造化したものとして、リストとディクショナリーとセットなどがある。

リストは複数の変数を 0 から始まる整数で順序づけて（インデックスを付けて）並べたものである。ディクショナリーは、キーと値をペアにして並べたもので、やはり複数の変数をまとめた形で扱うことができる。

文字列は、文字のリストとして扱われるので、同じように 0 から始まるインデックスが付けられているものである。

なお、文字列は、'ABC'のようにシングルクォーテーション、あるいは"ABC"のようにダブルクォーテーションで囲んで、文字列定数とする。

### 2.3.2 テキストファイルの入出力

Python 言語では、テキストファイルを扱うことができる。Colaboratory の環境では様々な方法でのテキスト入出力ができる。はじめにテキストの入力から述べたい。

第 1 に、

```
from google.colab import files
```

次の行に

```
file = files.upload()
```

---

<sup>2</sup> Python 言語に関しては 2018 年度～2022 年度の間、青山学院大学近藤泰弘名誉教授の講義で得られた知識である。

と入力し、プログラムを作動させる。ここから入力したいテキストを選択する。

テキストを出力する場合は入力時と同じように、

```
from google.colab import files
```

から起動し、次の行に

```
files.download(出力するテキスト名)
```

のようにテキストファイルの出力が行われる。

### 2.3.3 文字列関数による csv ファイル処理

次に、split で行う文字列関数 csv ファイルを処理について説明したい。Split() は Python の文字列を区切り文字で分割することを意味している。

csv ファイルとは「comma separated values」といい、値や項目をカンマ (,) で区切って書いたファイルのことである。このように値や項目をカンマで区切ったデータは一般的なファイルよりデータの情報が少ないため、Python での大量なデータ処理によく使われる。ここで得た csv ファイルの内容を「tomorrow,is,another,day」としよう。この場合、a = "tomorrow is another day" とし、Split でテキストを処理する。そこで次の行に a.split(",") と入力した場合、結果が ['tomorrow', 'is', 'another', 'day'] となる。ここでは文字を取り、区切ることも出来る。そこで a.split("o") とした場合、['t','m','rr','w','is','an','ther','day'] と言うようになる。

### 2.3.4 if 文による条件分岐

if 文とは、プログラムの中で変更する条件に応じて処理をする構文のことである。この if 文に [>]、[<] のような演算子を使用した場合に、「True」または「False」のように結果が出る。例えば、「5>20」と書き込んだ場合、プログラムは「False」となる。次に、if、else を用いてどのようなプログラムができるのか説明する。例えば、if 文の条件が成立しなかった場合、どのような回答を得るべきかを考え、条件によって二つの回答を準備しなければならない。最初に例を見てみる。

例：>>>temperature = 30

```

……if temperature < 3:
………print(‘寒い’)
……else:
……… print(‘暑い’)

```

ここでの最初の「print(‘寒い’)」は、条件が「True」だった場合の処理を表す。次の「print(‘暑い’)」は、条件が「False」だった場合の処理を表すことができる。

### 2.3.5 for 文による繰り返し

Colaboratory で使われる for 文とは、リストや辞書型に対する処理をする時に必要となる。例えば2社の遊園地で顧客が来園し、遊んだ時間はどのくらいかの平均値を計算する場合について述べたい。

表 2-1.遊園地 X

来園者	滞在時間
A さん	8h
B さん	7.5h
C さん	10h

表 2-2.遊園地 Y

来園者	滞在時間
D さん	5.5h
E さん	9.5h
F さん	6h

のようなリストがあるとしよう。表 2-1 のリストの変数を「list\_X」とする。次に表 2-2 のリストの変数を「list\_Y」とした。

```
list_X =[8,7.5,10]
```

```
list_Y =[5.5,9.5,6]
```

平均値はリストの数の合計を足し、そこから個数を割らなければならない。この場合、for 文を使う。

```
for val in list_X:  
    print(val)
```

ここでリスト X の内容が以下の通りに出力される。

...

8

7.5

10

これは for 文の繰り返しである。

続いて、各滞在時間の平均数を求める場合、

```
list_X = [8, 7.5, 10]  
sum = 0.0  
for num in list_X:  
    sum = sum + num  
print sum / len(list_X)
```

結果は 8.5 となり、遊園地 X の平均滞在時間は 8.5 時間となる。同様に遊園地 Y の計算もできる。この場合、遊園地 Y の平均滞在時間は 7 時間であることがわかる。従って遊園地 X の滞在時間が遊園地 Y より長いことが得られる。

### 2.3.6 Python のバージョン

Python には、大きなバージョンの差がある。2 系列と 3 系列がある。日本語の扱いなどが大きく違うため、人文系の研究には 3 系列を学習すべきであると考えられる。Colaboratory でも、新規ノートを作る時には、自動的に Python3 の形式で作られる。非常に古いライブラリなどで Python2 が必要な場合もあるが、その時のみに 2 を利用する。

Colaboratory では作られるプログラムは、自動的に ipynb という拡張子が付けられて、各自の Google ドライブに保存される。ipynb の名称は、もともと Ipython ノートブックがもとになって作られたため、PC に個別にインストールされる Jupyter ノートブックシステムでも共通である。Colaboratory は Jupyter のオンライン版と言える。

### 2.3.7 Python での分析

Python でデータを分析する前に、中納言で得た「ていく」「てくる」「ている」の内容を UTF-8 に設定する。ここでは txt 形式でダウンロードする必要がある。ダウンロードした txt 形式の内容は、Colaboratory 環境で処理を行った。操作の順としては、はじめにダウンロードした txt 形式の内容を Python プログラムにアップロードし、アップロードした内容データを読み取ることが第一歩となる。次に Excel の入力ファイル名、シート名を指定し、前文脈を「|」で分割した。そして、最後から 2 番目になる括弧内の動詞を取り出した。この操作の次に、前後にある括弧を取るとともに、前に余分なゴミがあるのを取り除いた。続いて、出現語系「テ・デ」を抜き出す作業を行い、「動詞+て・で+「いく・くる・いる」」を作成し、それらの頻度をディクショナリにした。最後に、ディクショナリを画面とファイルに書き、頻度順にソートした。

この一連の操作を示すと以下のようなになる。

```
from pandas import Series,DataFrame
import pandas as pd
df=pd.read_excel('tekuru.xlsx',header=None,names=['goiso','count'])
```

ここでデータフレームの中身を表示した。

```
df.head()
```

	Goiso	count
0	為る	20104
1	出る	18860
2	成る	10778

3	遺る	9586
---	----	------

「てくる」と同様に、「ていく」と「ている」の内容を入力し、その後、3つのカテゴリーを1つに合わせた。合わせた内容を df5 とした。

```
df5 = pd.merge(df3, df4, how="inner", on="goiso")
```

ここまでで、内容は以下の通りとなった。

	Goiso	count	count_x	count_y
1	為る	21191	20104	231647
2	成る	3984	10778	62069
3	持つ	3923	4177	19900
4	出る	3550	18860	7581

この表を「narabikae.csv」と名付け、保存した。

次に、「ていく」「てくる」「ている」に含まれている動詞の割合を計算する作業に入った。操作方法は以下の通りである。

```
import pandas as pd
import numpy as np
pd.options.display.precision = 2
```

ここで X のパーセントを計算した。X は「てくる」の動詞である。

```
def heikinx(df5):
    result = df5['count_x'] / (df5['count_x'] + df5['count_y'] + df5['count']) *
100
    return result
```

次に、Y のパーセントを計算した。Y は「ていく」の動詞である。

```
def heikiny(df5):
    result = df5['count_y'] / (df5['count_x'] + df5['count_y'] + df5['count']) *
100
    return result
```

最後に、3 つ目のパーセント、すなわち、「ている」の動詞のパーセンテージを計算した。

```
def heikin_z(df5):
    result = df5['count'] / (df5['count_x'] + df5['count_y'] + df5['count']) * 100
    return result
```

ここで、3 つの平均を作った。

```
df6 = df5.apply(heikin_x, axis=1)
df7 = df5.apply(heikiny, axis=1)
df8 = df5.apply(heikin_z, axis=1)
```

最後は、もとの df5 に平均を 3 個くっつけた。

```
df9 = pd.concat([df5, df6, df7, df8], axis=1)
```

このため、df9 は以下の通りになった。

	goiso	count_x	count_y	count	0	1	2
0	為る	20104	231647	21191	7.37	84.87	7.76
1	出る	18860	7581	3550	62.89	25.28	11.84
2	成る	10778	62069	3984	14.03	80.79	5.19
3	遣る	9586	8411	1824	48.36	42.43	9.20



以上が、BCCWJ の検索から Python 言語を用いたデータ処理までの方法である。次節では、この方法によって得られたデータを用いて、「ていく」「てくる」「ている」の分析を行っていく。

## 第3章

### 「ていく」「てくる」「ている」の前項動詞の種類

#### 3.1 はじめに

本章では、BCCWJ のデータをもとに、「ていく」「てくる」「ている」の前項動詞の種類について考察を行う。具体的には、「ていく」「てくる」「ている」と共起しやすい前項動詞の特徴を明らかにする。予め本章で得られた主たる結論を示すと以下の通りとなる。

第1に、「ていく」とのみ共起する前項動詞として「走り去る」「通り過ぎる」「去る」などが挙げられるが、これらの動詞は、ある対象から《離れる》という意味を含んでおり、「ていく」に似た意味特徴を有する。

第2に、「てくる」のみと共起する前項動詞として「込み上げる」「湧き上がる」「押し寄せる」などが挙げられるが、これらの動詞は、ある対象に《近づく》意味を含んでおり、「てくる」に似た意味特徴を有する。

第3に、「ている」のみと共起する前項動詞として「潜む」「困る」「待ち合わせる」などが挙げられるが、これらの動詞は、《状態的な動作》を表しており、その意味で「ている」に似た意味特徴を有する。

以上のことから、補助動詞「ていく」「てくる」「ている」は、前項動詞の意味にただ単純に意味を付加するのではなく、前項動詞の本来持っている意味を強化する作用があり、「ていく」「てくる」「てくる」等の状態・移動系のアスペクトの性質は、それが接続する動詞との関係が深いという意味において、ヴォイスと似た側面があることが強く示唆される点を主張する。

#### 3.2 「ていく」「てくる」「ている」の分析

本研究では、前章で示した方法によって得られたデータをもとに、「ていく」「てくる」「ている」に前接する動詞の種類について分析を行う。

前章で紹介した Python を実行し、それによって得られたデータを前項動詞の件数の多い順に並べた結果が、次の表 3-1 である。ここでは、件数が多いため、合計件数のランキング上位 50 位までの動詞を載せる。

表 3-1 「ていく」「てくる」「ている」の合計件数 (BCCWJ での検索結果)

No.	「ていく」に前接する動詞 (語彙素)	件数	「てくる」に前接する動詞 (語彙素)	件数	「ている」に前接する動詞 (語彙素)	件数
1	為る	21191	為る	20104	為る	231647
2	成る	3984	出る	18860	成る	62069
3	持つ	3923	成る	10778	思う	24627
4	出る	3550	遣る	9586	持つ	19900
5	連れる	3125	返る	7143	考える	16083
6	生きる	2052	入る	4915	来る	13438
7	入る	1904	戻る	4378	言う	12894
8	遣る	1824	持つ	4177	見る	12735
9	歩く	1432	行く	2711	知る	11444
10	進める	1350	見える	2135	入る	8731
11	進める	1350	見える	2135	入る	8731
12	見る	1053	聞こえる	2036	遣る	8411
13	考える	1033	買う	2035	出る	7581
14	進む	916	見る	1783	行う	6834
15	消える	846	言う	1460	分かる	6556
16	作る	836	近付く	1450	付く	6387
17	変わる	815	連れる	1444	残る	6077
18	付く	790	生まれる	1430	聞く	5906
19	続ける	753	変わる	1426	使う	5903
20	飛ぶ	745	続ける	1424	続ける	5077
21	返る	725	付く	1242	住む	4830
22	上る	723	掛かる	1232	立つ	4816
23	凶る	683	増える	1163	待つ	4797
24	つく	680	伝わる	1162	出来る	4581
25	下りる	664	分かる	1139	生きる	4484
26	増える	646	下りる	1062	受ける	4395
27	去る	638	掛ける	1025	示す	4348
28	変える	636	飛ぶ	925	乗る	4097

29	広がる	619	生きる	876	書く	3858
30	出掛ける	599	取る	852	行く	3703
31	死ぬ	518	違う	819	覚える	3662
32	付ける	498	上がる	811	似る	3522
33	走る	474	聞く	790	取る	3448
34	戻る	474	落ちる	747	感ずる	3434
35	流れる	470	沸く	732	仕舞う	3286
36	落ちる	467	行う	691	続く	3245
37	置く	465	集まる	689	付ける	3171
38	行う	443	送る	642	働く	2936
39	上がる	443	運ぶ	636	掛かる	2853
40	近づく	411	訪ねる	634	占める	2802
41	向かう	374	飛び込む	627	出す	2797
42	繋がる	372	浮かぶ	601	致す	2770
43	離れる	370	歩く	596	述べる	2599
44	取り組む	360	出す	591	始める	2578
45	過ぎる	336	現われる	570	作る	2546
46	上げる	330	つく	568	話す	2539
47	逃げる	317	迫る	563	座る	2522
48	頑張る	288	流れる	557	呉れる	2383
49	高める	283	思う	550	歩く	2350
50	移る	272	回る	541	決まる	2285

表 3-1 からは、BCCWJ 内で見られる「前項動詞+ていく・てくる・ている」の前項動詞の件数を単純な合計の値で把握できる。しかしながら、個々の動詞の本来の出現率に影響されているので、国立国語研究所学術情報リポジトリのホームページの『現代日本語書き言葉均衡コーパス』短単位語彙表 (Version1.1) からコーパス全体の動詞出現件数を調査し、その値で、上記 3-1 の BCCWJ で検索した動詞結果の合計件数を割って、補正することで、出現率に影響されない順位を計算する。ここでの補正数値では「コーパス全体の動詞出現件数」には、「V」「V ていく」「V てくる」「V ている」が全て含まれている。

### 3.2.1 短単位語彙表の分析

はじめに、国立国語研究所学術情報リポジトリのホームページから『現代日本語書き言葉均衡コーパス』短単位語彙表 (Version1.1) をダウンロードし、全体

の語彙表から「動詞」のみの内容を抽出した。「動詞」のみの語彙表は9,541件あり、中には重複する動詞もあるため、最初に重複する動詞を統合しなくてはならない。そのため、はじめの作業として、9,541件の動詞の並べ替えをし、重複する動詞を見つけ、統合する作業を行なった。

その後、表3-1の「ていく・てくる・ている」の語彙素を「ていく」「てくる」「ている」の三つに分類し、それぞれの内容を csv 形式(コンマで、語形と数値のフィールドが区切られた一般的な表形式のデータ)に変更した。次に、短単位語彙表の「動詞」のみの内容も csv 形式に変更した。データを csv 形式に変更した後、Google Colaboratory 環境で Python を使用し、「ていく」「てくる」「ている」の数値を短単位語彙表の「動詞」で割る計算を行なった。計算過程は以下の通りである。

はじめに、データを入力する作業を行った。

```
from google.colab import files
upload = files.upload()
```

ここで最初に使用する「ていく」のファイルを添付し、「teiku.csv」と命名した。次に、割る対象になる「語彙表」をファイルに添付し「goihyo」と命名した。その為、もう一度データを入力する作業を行なった。

```
from google.colab import files
upload = files.upload()
```

この時点で、「ていく」と「語彙表」のデータを Python にアップロードする作業は完了した。

続いて、割り算の内容に入る。数値は csv 形式を使用するため、import csv と入力し、次の decimal とは小数点の計算を使用する場合に Python では十進数の計算をするため、「decimal モジュール」を用意している。

```
import csv
```

```
from decimal import *
```

さらに、「データファイル」を「ていく」の内容とし、「データファイル2」を「語彙表」の内容にした。

```
datafile = "teiku.csv"  
datafile2 = "goihyo.csv"
```

データを開く際、「ていく」と「語彙表」をそれぞれ「ファイル」及び「ファイル2」と名付けた。Python で使用する数値は csv 形式であり、csv 形式は utf-8 となっている。

```
file = open(datafile,encoding='utf-8')  
file2 = open(datafile2,encoding='utf-8')
```

ここで辞典内容を「tinydict」と示した。

```
tinydict = {}
```

以外に、内容を「データ」、「データ2」、「データ3」とした。ここの「データ3」は計算結果を記入するデータである。

```
data = []  
data2 = []  
data3 = []
```

以下の作業は、データの中のスペースや「,」など不要な内容を削除する一歩である。

```
for i in file.readlines():
```

```

    data.append(i.strip('¥n').split(','))
for d in data:
    tinydict[d[0]] = d[1]

for i in file2.readlines():
    data2.append(i.strip('¥n').split(','))

for d in data2:

```

ここで計算に入るが、計算結果で「0」になる数値はデータ的一方だけに存在する場合に記入するよう示している。

```

if(tinydict.get(d[0])==None or d[1] == None):
    data3.append(d[0] + ":0")
else:

```

最後に、「ていく」割る「語彙表」となる。

```

    data3.append(d[0] + ":" +
str(round(Decimal(tinydict.get(d[0]))/Decimal(d[1]),7)))
print(data3)
file.close()
file2.close()

```

ここで結果が「'為る:0.0082653', '居る:0.0000340', '有る:0.0000376', '言う:0.0001668', '成る:0.0070633', '来る:0.0001512', '思う:0.0002750'…」のように示された。

同様に、「てくる」の割り算をした結果、「'為る:0.0078413', '居る:0.0000257', '有る:0.0000658', '言う:0.0018178', '成る:0.0191085', '来る:0.0000672', '思う:0.0024009'…」となり、「ている」は「'為る:0.0903509', '居る:0.0001591', '

有る:0.0005319', '言う:0.0160543', '成る:0.1100430', '来る:0.0564349', '思う:0.1075035'…」となった。

### 3.2.2 語彙表による「ていく」「てくる」「ている」の数値

「ていく」「てくる」「ている」を語彙表で割り、使用率が多い順に並び替えた結果が次の表 3-2 である。ここでも、同様に件数が多いため、合計件数のランキング上位 50 位までを載せる（ランキング上位 200 位までの表は巻末の付録に載せてあるので、参照されたい）。

表 3-2 「ていく」「てくる」「ている」に前接する動詞（前項動詞）の最終数値

No.	「ていく」の前項動詞	割り算結果	「てくる」の前項動詞	割り算結果	「ている」の前項動詞	割り算結果
1	連れる	0.3041067	込み上げる	0.7068146	待ち構える	0.7681499
2	遠ざかる	0.236478	湧き上がる	0.3859649	持ち合わせる	0.7335984
3	のめり込む	0.2255892	押し寄せる	0.3535076	備わる	0.6469595
4	駆ける	0.2235294	跳ね返る	0.3347639	待ち受ける	0.6055046
5	走り去る	0.2147651	飛び込む	0.3099357	物語る	0.5612145
6	通り過ぎる	0.2127139	返る	0.296218	潜む	0.5564516
7	遠退く	0.20059	沸く	0.2952804	ぶら下がる	0.4745098
8	突き詰める	0.1991342	浮かび上がる	0.280654	満ち溢れる	0.472
9	薄れる	0.1799163	押し掛ける	0.2727273	心得る	0.4456654
10	吹き抜ける	0.1699029	伝わる	0.2718129	思い込む	0.4444444
11	突き進む	0.1666667	申し掛かる	0.2633333	突き立つ	0.4430052
12	駆け抜ける	0.1642229	降り懸かる	0.2527076	長ける	0.4334365
13	去る	0.1632966	擡げる	0.2379032	出回る	0.4324853
14	切り開く	0.1538462	出る	0.2337196	滲み出る	0.4298507
15	積み重ねる	0.1495935	戻る	0.2329591	横たわる	0.4171171
16	擦り抜ける	0.1462585	襲い掛かる	0.2317263	散らばる	0.4128035
17	走り抜ける	0.1434599	近寄る	0.2290249	欠ける	0.4092059
18	駆け下りる	0.1383929	聞こえる	0.2224893	住む	0.4012294
19	飛び掛かる	0.1367521	湧き出る	0.2222222	佇む	0.3872054



20	繋げる	0.1272124	忍び寄る	0.2121212	残る	0.3858168
21	追い抜く	0.1157895	引っ越す	0.2108779	転がる	0.3802705
22	攫う	0.1136891	孵る	0.2093704	似る	0.379199
23	押し進める	0.1084071	流れ込む	0.2084592	突き出る	0.3791209
24	更ける	0.1071429	這い上がる	0.2061404	見入る	0.3786982
25	旅立つ	0.1070664	突き上げる	0.2056075	焼き付く	0.372
26	消える	0.1070209	近付く	0.2047733	立ち尽くす	0.3712121
27	切り込む	0.106383	駆け込む	0.2040134	目論む	0.3709677
28	飛ぶ	0.1063526	訪ねる	0.1982489	企む	0.3705722
29	進める	0.1032347	駆け寄る	0.192053	間違う	0.3674222
30	沈む	0.0997442	築き上げる	0.1883657	蠢く	0.3658537
31	掘り下げる	0.0996016	溢れ出る	0.1840796	写る	0.3644444
32	生きる	0.0993512	蘇る	0.182266	静まり返る	0.3598326
33	深まる	0.0992063	抱き付く	0.1752336	飛び回る	0.3504902
34	駆け出す	0.0960591	培う	0.1730104	飼う	0.3477199
35	下りる	0.0936134	割り込む	0.1728395	孕む	0.3475936
36	過ぎ去る	0.0934579	飛び掛かる	0.1666667	混む	0.3434226
37	駆け上がる	0.0932476	吹き上げる	0.1649485	蹲る	0.3381443
38	深める	0.0923754	話し掛ける	0.1613217	悩む	0.3361274
39	解れる	0.0923077	寄る	0.1581167	適する	0.3351322
40	萎む	0.0921659	纏わり付く	0.1517241	垂れ下がる	0.3320463
41	飛び立つ	0.0909091	駆ける	0.151634	張り付く	0.331058
42	溶け込む	0.0892495	飛び出す	0.1506386	聳える	0.3287356
43	積み上げる	0.0888031	下りる	0.1497251	埋まる	0.3268999
44	広がる	0.0879636	浮かぶ	0.145803	寝そべる	0.3247232
45	作り上げる	0.087493	駆け付ける	0.1440238	覚える	0.3235268
46	追い越す	0.0845411	解れる	0.1435897	見惚れる	0.3220339
47	広まる	0.0842754	沸き起こる	0.1428571	掛け離れる	0.3183962
48	立ち向かう	0.0841924	連れる	0.1405216	賑わう	0.3178893
49	飛び出す	0.0833959	滲み出る	0.1402985	生える	0.3150022
50	上り詰める	0.0824742	駆け下りる	0.1383929	こびり付く	0.3112583

上の表 3-2 の結果から、「ていく」に前接する動詞として、「連れる」「遠ざかる」「のめり込む」などの比率が高いことがわかる。一方、「てくる」に前置する動詞として、「込み上げる」「湧き上がる」「押し寄せる」などの比率が高いことがわかる。そして、「ている」に前接する動詞として、「待ち構える」「待ち合わせる」「備わる」などの比率が高いことがわかる。

### 3.3 「ていく」の前項動詞の分析

表 3-2 に比率をつけ、Python によって「ていく」が多い順になる次の表を作成した。

表 3-3 「ていく」の比率が多い順

NO.	語彙素	ていく	ている	てくる	ていく比率	ている比率	てくる比率
1	裏返す	0.00694	0	0	100%	0.00%	0.00%
2	混ぜ合わせる	0.00258	0	0	100%	0.00%	0.00%
3	際する	0.00042	0	0	100%	0.00%	0.00%
4	目掛ける	0.00369	0	0	100%	0.00%	0.00%
5	走り去る	0.21477	0.00336	0	98.46%	1.54%	0.00%
6	通り過ぎる	0.21271	0.01304	0.00489	92.23%	5.65%	2.12%
7	去る	0.1633	0.01689	0.00102	90.11%	9.32%	0.56%
8	思い切る	0.00581	0.00045	0.00045	86.67%	6.67%	6.67%
9	走り抜ける	0.14346	0.0211	0.00422	85.00%	12.50%	2.50%
10	擦り抜ける	0.14626	0.01701	0.0102	84.31%	9.80%	5.88%
11	駆け抜ける	0.16422	0.01173	0.02053	83.58%	5.97%	10.45%
12	掘り下げる	0.0996	0.01992	0	83.33%	16.67%	0.00%
13	旅立つ	0.10707	0.01713	0.00428	83.33%	13.33%	3.33%
14	掠める	0.0636	0.00877	0.00439	82.86%	11.43%	5.71%
15	煮詰める	0.06928	0.01506	0	82.14%	17.86%	0.00%
16	追い越す	0.08454	0.01691	0.00242	81.40%	16.28%	2.33%
17	飛び立つ	0.09091	0.01705	0.00379	81.36%	15.25%	3.39%
18	立ち去る	0.06994	0.0184	0	79.17%	20.83%	0.00%
19	過ぎ去る	0.09346	0.02492	0	78.95%	21.05%	0.00%

20	組み替える	0.01887	0.00539	0	77.78%	22.22%	0.00%
21	ずらす	0.03515	0.01054	0	76.92%	23.08%	0.00%
22	過る	0.04389	0.01336	0	76.67%	23.33%	0.00%
23	減びる	0.0241	0.00753	0	76.19%	23.81%	0.00%
24	のめり込む	0.22559	0.06061	0.0101	76.14%	20.45%	3.41%
25	繋げる	0.12721	0.0365	0.00442	75.66%	21.71%	2.63%
26	通り抜ける	0.07519	0.01504	0.0094	75.47%	15.09%	9.43%
27	考え直す	0.02261	0.00754	0	75.00%	25.00%	0.00%
28	ばらす	0.01176	0	0.00392	75.00%	0.00%	25.00%
29	切り開く	0.15385	0.03147	0.02273	73.95%	15.13%	10.92%
30	解す	0.02229	0.00478	0.00318	73.68%	15.79%	10.53%
31	遠退く	0.20059	0.07375	0	73.12%	26.88%	0.00%
32	抜き出す	0.05221	0.01205	0.00803	72.22%	16.67%	11.11%
33	叶える	0.00862	0.00345	0	71.43%	28.57%	0.00%
34	遡る	0.03652	0.00664	0.00863	70.51%	12.82%	16.67%
35	対する	0.00099	0.0004	1.43E-05	70.41%	28.57%	1.02%
36	増やす	0.07576	0.02782	0.00592	69.19%	25.41%	5.41%
37	飛び越える	0.02247	0.00375	0.00749	66.67%	11.11%	22.22%
38	年老いる	0.03165	0.01582	0	66.67%	33.33%	0.00%
39	掻き分ける	0.02882	0.01153	0.00288	66.67%	26.67%	6.67%
40	剥ぎ取る	0.01633	0	0.00816	66.67%	0.00%	33.33%
41	押し退ける	0.00685	0	0.00342	66.67%	0.00%	33.33%
42	連れる	0.30411	0.01304	0.14052	66.45%	2.85%	30.70%
43	遠ざかる	0.23648	0.11698	0.00252	66.43%	32.86%	0.71%
44	助け合う	0.04802	0.01977	0.00565	65.38%	26.92%	7.69%
45	絞り込む	0.04928	0.02319	0.0029	65.38%	30.77%	3.85%
46	追い詰める	0.05288	0.02043	0.00841	64.71%	25.00%	10.29%
47	広める	0.07679	0.04096	0.00171	64.29%	34.29%	1.43%
48	発つ	0.01727	0.00576	0.00384	64.29%	21.43%	14.29%
49	剥がす	0.02148	0.01074	0.00134	64.00%	32.00%	4.00%
50	老いる	0.07372	0.03025	0.01134	63.93%	26.23%	9.84%

上の表 3-3 では、「ていく」に前接する動詞の使用率の結果が示されている。この表では、「ていく」に前接する動詞のうち、「裏返す」「混ぜ合わせる」「際する」「目掛ける」の使用比率が 100%となっているが、これは、これらの動詞が「ていく」「てくる」に前接する例がなかったことに影響している。また、これらの動詞と共起する「ていく」の例はそもそも少ない（たとえば、「裏返す+ていく」、「混ぜ合わせる+ていく」の例はともに 2 件、「際する+ていく」の例は 1 件、「目掛ける+ていく」の例は 2 件である）。これら 4 つの前項動詞については、用例数が少ないため除外し、ここでは、ランキング 5 位の「走り去る+ていく」以下を分析データとする。

はじめに、「走り去る+ていく」について見てみよう。

- (21) ちょうどその後ろ側の顔に付いた目を光らせて、走り去っていくところだった。

(鷲沢萌(著)『葉桜の日』・新潮社・1990)

- (22) 捨て台詞の口調でそう吐き捨てて、あとは逃げるように車夫は走り去っていく。そろそろ夕映えの色に染まりはじめた果園のなかの道にその後ろ姿を…

(真堂樹(著)『龍は乱れる』集英社・1998)

ここでは、話し手や視点人物から〈離れる（遠ざかる）〉方向への移動が示されている。ここで注目したいのは、このような〈離れる（遠ざかる）〉意味は、「走り去る」単独でも示すことが可能であるという点である。たとえば、次の例では、坂井が自転車に乗って走り去ったことが描写されているが、ここでは、話し手または視点人物から〈離れる（遠ざかる）〉方向への移動が示されている。

- (23) 坂井はまたおどけた顔をして、ポロ自転車で走りさった。あそこ電話のある家は百けんに一けんぐらいだったから。

(佐藤州男(著)高橋透(絵)『死んでたまるか!』ポプラ社・1987)

同様のことが、「通り過ぎる」や「去る」でも言える。以下の例は、これらの動詞に「ていく」が後続した例であり、やはり、話し手や視点人物から〈離れる（遠ざかる）〉方向への移動が示されている。

- (24) 時折、ミンスク行きの列車が、もの悲しい警笛を鳴らしながら通り過ぎて行く。キノコを見つけると、根元をナイフで切って、ビニール袋に入れる。

(平田宏(著)NHK取材班(著)『もう一つのソビエト』  
日本放送出版協会・1986)

- (25) 男のきもの姿の重要なポイントは、後ろ姿なのである。去っていく後ろ姿を印象づけるのは、二点。

(埴ちと(著)『男のきもの達人ノート』ダイヤモンド社・2003)

一方、これらの動詞は、次のように、単独で、話し手や視点人物から〈離れる（遠ざかる）〉方向への移動を示すことも可能である。

- (26) 充分意識しつつ、悪びれる様子もなく堂々と歩いて来る。我々の前を通り過ぎた時だった。

(岡村喬生(著)『ヒゲのオタマジャクシ世界を泳ぐ』新潮社・1986)

- (27) 心情とかけ離れた研究でしかありえないことに疑問を抱き、研究所を去る。

(岸陽子(著)『中国知識人の百年』早稲田大学出版部・2004)

たとえば、(26)では、対象者が我々の目の前に現れたが、我々から〈離れる〉動作を描写しているとみなし得る。

このように、「走り去る」「通り過ぎる」「去る」という動詞は、明らかに「いく」と同様に、主体から〈離れる〉ニュアンスを持つ動詞であることがわかる。これらの動詞以外にも、表3-3で上位にランクされている「走り抜ける」「すり抜ける」「駆け抜ける」「旅立つ」「追い越す」「飛び立つ」「立ち去る」な

ども、〈ある基準点からの離反的な移動〉を示す点で、「くる」「いる」よりも「いく」に近いニュアンスを持つ動詞であると言える。幾つか用例を挙げておく。

(28) キロン城とはくらべようもない広大な城内は、馬車で走り抜けるにしても、容易ではなかった。

(富野由悠季(著)『オーラバトラー戦記』角川書店・1991)

(29) 八景島シーパラダイスサーフコースター海上を疾走しながら密着！海に突き出たループを駆け抜ける日本初の海上走行ローラーコースター。海へダイビングするような緊張感を存分に味わえる

(三宅裕丈(著)『東京ウォーカー』角川書店・2001)

(30) 水っぱなも垂れてきたど」と顔を覗き込む。そして主人公は故郷を旅立つ。僕の場合は、東京行きの新幹線だった。

(野沢尚(著)『映画館に、日本映画があった頃』・キネマ旬報社・1995)

(31) 2人のアゲート初めての学園生活。初めての友人。そして、少年は世界へと飛び立つアゲートの奇蹟の力発動！？

(オオシマアイカ(著)/宮昌太朗(著)『ニュータイプ』角川書店・2005)

(32) 自動車を運転していて、前方の車を追い越す要領だが、ドライバーにしても、スキーヤーにしても、なぜか前方に…

(横山研二(著)『わがままフランス、やっぱりフランス』集英社・1996)

(33) イチョウに、宿泊代を含めてけっこうな額を恵んでもらった手前、黙って立ち去るのは不作法にはちがいないが、こちらから頼んだわけではない。

(西澤保彦(著)『フェティッシュ』集英社・2005)

#### 3.4 「てくる」の前項動詞の分析

次に、「てくる」の前接動詞について見てみよう。「ていく」の前接動詞と同様の要領で、「てくる」の前接動詞のランキング表を作成した。

表 3-4 「てくる」の比率が多い順

NO.	語彙素	てくる	ていく	ている	てくる比率	ていく比率	ている比率
1	込み上げる	0.706815	0	0.00317	99.55%	0.00%	0.45%
2	湧き上がる	0.385965	0	0.045614	89.43%	0.00%	10.56%
3	押し寄せる	0.353508	0.0055	0.068776	82.64%	1.29%	16.08%
4	飛び込む	0.309936	0.05635	0.01483	81.32%	14.79%	3.89%
5	返る	0.296218	0.03007	0.011114	87.79%	8.91%	3.29%
6	沸く	0.29528	0	0.036708	88.94%	0.00%	11.06%
7	浮かび上がる	0.280654	0.00182	0.080836	77.25%	0.50%	22.25%
8	押し掛ける	0.272727	0.03349	0.026316	82.01%	10.07%	7.91%
9	伝わる	0.271813	0.01614	0.080936	73.68%	4.38%	21.94%
10	押し掛かる	0.263333	0.02	0.18	56.83%	4.32%	38.85%
10	降り懸かる	0.252708	0.00361	0.050542	99.55%	0.00%	0.45%
11	擡げる	0.237903	0	0.080645	74.68%	0.00%	25.32%
12	出る	0.23372	0.04399	0.093946	62.89%	11.83%	25.28%
13	戻る	0.232959	0.02522	0.025488	82.12%	8.89%	8.99%
14	襲い掛かる	0.231726	0.00933	0.020218	88.69%	3.57%	7.74%
15	近寄る	0.229025	0.05102	0.004535	80.48%	17.93%	1.59%
16	聞こえる	0.222489	0	0.039777	84.83%	0.00%	15.17%
17	引越す	0.210878	0.02195	0.016221	84.67%	8.81%	6.51%
18	孵る	0.20937	0.03368	0.026354	77.72%	12.5%	9.78%
19	流れ込む	0.208459	0.03323	0.102719	60.53%	9.65%	29.82%
20	突き上げる	0.205608	0.00312	0.046729	80.49%	1.22%	18.29%
21	近づく	0.204773	0.05804	0.05663	64.10%	18.17%	17.73%
22	駆け込む	0.204013	0.04348	0.013378	78.21%	16.67%	5.13%
23	訪ねる	0.198249	0.04816	0.019074	74.68%	18.14%	7.18%
24	駆け寄る	0.192053	0.02483	0.003311	87.22%	11.28%	1.50%
25	築き上げる	0.188366	0.06371	0.036011	65.38%	22.12%	12.50%
26	蘇る	0.182266	0.00246	0.012931	92.21%	1.25%	6.54%

27	抱き付く	0.175234	0	0.037383	82.41%	0.00%	17.59%
28	培う	0.17301	0.01038	0.024222	83.33%	4.50%	11.67%
29	割り込む	0.17284	0.02116	0.024691	79.03%	9.68	11.29%
30	話し掛ける	0.161322	0.00243	0.063168	71.09%	1.07%	27.84%
31	寄る	0.158117	0.03619	0.016163	75.13%	17.20%	7.68%
32	纏わり付く	0.151724	0.00345	0.203448	42.31%	0.96%	56.73%
33	駆ける	0.151634	0.22353	0.028758	37.54%	55.34%	7.12%
34	飛び出す	0.150639	0.0834	0.035312	55.93%	30.96%	13.11%
35	下りる	0.149725	0.09361	0.022135	56.40%	35.26%	8.34%
36	浮かぶ	0.145803	0.00049	0.152596	48.78%	0.16%	51.06%
37	駆け付ける	0.144024	0.0052	0.017075	86.61%	3.12%	10.27%
38	沸き起こる	0.142857	0.00386	0.057915	69.81%	1.89%	28.30%
39	連れる	0.140522	0.30411	0.01304	30.70%	66.45%	2.85%
40	滲み出る	0.140299	0.00597	0.429851	24.35%	1.04%	74.61%
41	迫る	0.137485	0.01026	0.139683	47.83%	3.57%	48.60%
42	追い掛ける	0.136166	0.04635	0.068083	54.34%	18.50%	27.17%
43	吹き付ける	0.136076	0.00316	0.063291	67.19%	1.56%	31.25%
44	潜り抜ける	0.135338	0.04887	0.003759	72.00%	26.00%	2.00%
45	浮き上がる	0.134663	0.00249	0.114713	53.47%	0.99%	45.54%
46	飛ぶ	0.132049	0.10635	0.080799	41.37%	33.32%	25.31%
47	生える	0.130664	0.00044	0.315002	29.29%	0.10%	70.61%
48	襲う	0.130099	0	0.013597	90.54%	0.00%	9.46%
49	忍び込む	0.126904	0.00761	0.040609	72.46%	4.35%	23.19%

この表から明らかなように、用例数の点で上位の語、たとえば、「込み上げる」「湧き上がる」「押し寄せる」などは、「ていく」や「ている」よりも、「てくる」と共に使われやすい動詞であることがわかる。以下に幾つか用例を挙げておく。

(34) 胸がムカムカする。胃から酸っぱい液がこみ上げてくる。これ以上は、我慢できない。一気にロープを引く。

(遠藤ケイ(著)『雑想小舎便り』中央公論社・1987)



(35) やり直しだ」などと、頭ごなしにいわれたら、あなたは涙がこみあげてくるほどの怒りを感じてしまうに違いありません。

(植西聰(著)『職場のやっかいな人とつき合うコツ』学陽書房・2000)

(36) 一徹の陽灼けた顔が微かに震え始め、その目頭に涙が湧き上がってくる。見上げる飛雄馬。その凜々しい顔。

(山崎敬之(著)『テレビアニメ魂』講談社・2005)

(37) わたしは、胸のなかに、残酷なまでのなつかしさが湧き上がってくるのをおぼえた。

(安西水丸(著)『70 パーセントの青空』角川書店・1989)

(38) 青味がかかった朝の濃密な気配が部屋に押し寄せてくる。

(森詠(著)『北のレクイエム』青樹社・1986)

(39) マクベスと彼に向かってじわじわと押し寄せてくる、物言わぬ動く森のようなものだからである。

(関曠野(著)『野蠻としてのイエ社会』御茶の水書房・1987)

ここでは、話し手や視点人物に〈近づく〉方向への移動が示されているのであるが、このような〈近づく〉意味は、「こみ上げる」「湧き上がる」「押し寄せる」単独でも示すことが可能である。

(40) 聖ミカエルの塔には何の動きも見えない。微かな不安が込み上げる。

フォルステルとブランデスは、本当にあの中にいるのだろうか。

(中島渉(著)『サザンクロス流れて』中央公論社・1987)

(41) 晁の何を見てきたんだろう…！翠の胸に後悔が湧きあがる。あんなに長い時間を晁といっしょに過ごしてきたのに。

(矢沢あい(原作) 下川香苗(著)『天使なんかじゃない』集英社・1995)

(42) もっとも目には見えなくとも間断なく時代の変化の波が押しよせるなかで、いつのまにかバイエル先生がご先祖さまに祭り上げられる日がくる。

(伊能美智子(著)『ショパンが弾けた！？』春秋社・1986)

(40) や (41) では、視点人物の心内において、不安な気持ちや後悔の念が生じ、それらの〈心理的な接近〉を表している。また、(42) では、時空間メタファーによって、視点人物が位置する現在に向かって、時間（時代の変化の波）が移動してくることを表す。すなわち、ここでは〈時間的な接近〉が示されている。

同様のことが、「（景色が）飛び込む」「浮かび上がる」「我に返る」「押し寄せる」「押しかける」「襲いかかる」「降りかかる」「せまる」などの動詞でも言える。すなわち、これらの動詞は、それ自体、〈近づく〉という意味を持つ。

(43) しかし、読書に夢中になってふと心を外に開けたとき飛び込む景色は、また格別なのである。

（鷲田小彌太(著)『定年と読書』文芸社・2002)

(44) 電車に乗ってこの町を去った自分の転校が、ぼんやりと浮かび上がるのです。考え込みながら歩くうち、ゆるい昇り坂になり、遠くにマンションの灯が・・・

（森真沙子(著)『人生のもう一つの扉』

コスミックインターナショナル・1994)

(45) 彼はにやりと含み笑った。僕ははっとして我に返る。「べ、別に…そんなことない、けど。

（藤原万璃子(著)『ワイルド・ローズ』心交社・2002)

(46) 全国から七十五万人もの有田、伊万里のファンが押し掛けるという陶器市も終わって、有田の町も静けさを取り戻していることでしょう。

（林光(著)『職人技を見て歩く』光文社・2002)

(47) 師匠の費長房から、「九月九日、お前の故郷に災難が襲い掛かるだろう」との予言を伝えられる。

（Yahoo!・Yahoo!ブログ・2008)

(48) 語る芝野の言葉に耳を傾けた。『日を追うごとに、次々と降り懸かる災難。隣家の飼い犬の惨殺事件、隣家の男性の殺人事件・・・

（新堂冬樹(著)『鬼子』幻冬舎・2003)

(49) 間近に迫る恐怖の予感…。このキーワードが、彼女の「スイッチ」を切り替えているよう

(今井良(著)山崎元(著)斉藤武宏(著)松尾スズキ(著)  
桜木ピロコ(著)『週刊SPA!』扶桑社・2003)

たとえば、「景色が飛び込む」というのは、視点人物の視覚内に景色が映るということを示しており、抽象的な意味での〈接近〉が示されている。

### 3.5 「ている」の前項動詞の分析

最後に、「ている」の前接動詞について見てみよう。「ていく」「てくる」の前接動詞と同様の要領で、「ている」の前接動詞のランキング表を作成した。

表 3-5 「ている」の比率が多い順

NO.	語彙素	ている	ていく	てくる	ている比率	ていく比率	てくる比率
1	待ち構える	0.76815	0	0	100%	0.00%	0.00%
2	待ち受ける	0.6055	0	0	100%	0.00%	0.00%
3	横たわる	0.41712	0	0	100%	0.00%	0.00%
4	佇む	0.38721	0	0	100%	0.00%	0.00%
5	目論む	0.37097	0	0	100%	0.00%	0.00%
6	適する	0.33513	0	0	100%	0.00%	0.00%
7	聳える	0.32874	0	0	100%	0.00%	0.00%
8	寝そべる	0.32472	0	0	100%	0.00%	0.00%
9	見惚れる	0.32203	0	0	100%	0.00%	0.00%
10	弁える	0.29942	0	0	100%	0.00%	0.00%
11	考え込む	0.25597	0	0	100%	0.00%	0.00%
12	ぼやく	0.25316	0	0	100%	0.00%	0.00%
13	馬鹿げる	0.2489	0	0	100%	0.00%	0.00%
14	持ち歩く	0.24717	0	0	100%	0.00%	0.00%
15	立ち竦む	0.23828	0	0	100%	0.00%	0.00%
16	生やす	0.22222	0	0	100%	0.00%	0.00%

17	腰掛ける	0.22048	0	0	100%	0.00%	0.00%
18	嘆く	0.21665	0	0	100%	0.00%	0.00%
19	陣取る	0.21591	0	0	100%	0.00%	0.00%
20	滞る	0.20913	0	0	100%	0.00%	0.00%
21	飢える	0.2	0	0	100%	0.00%	0.00%
22	受け付ける	0.19084	0	0	100%	0.00%	0.00%
23	威張る	0.18886	0	0	100%	0.00%	0.00%
24	歩き回る	0.18182	0	0	100%	0.00%	0.00%
25	戸惑う	0.17697	0	0	100%	0.00%	0.00%
26	面する	0.17611	0	0	100%	0.00%	0.00%
27	寝込む	0.16863	0	0	100%	0.00%	0.00%
28	見張る	0.16492	0	0	100%	0.00%	0.00%
29	承る	0.16283	0	0	100%	0.00%	0.00%
30	きらめく	0.15473	0	0	100%	0.00%	0.00%
31	抱き合う	0.15207	0	0	100%	0.00%	0.00%
32	俯く	0.15124	0	0	100%	0.00%	0.00%
33	思い詰める	0.14552	0	0	100%	0.00%	0.00%
34	黙り込む	0.1383	0	0	100%	0.00%	0.00%
35	評する	0.13552	0	0	100%	0.00%	0.00%
36	次ぐ	0.11376	0	0	100%	0.00%	0.00%
37	口走る	0.11373	0	0	100%	0.00%	0.00%
38	喚く	0.1083	0	0	100%	0.00%	0.00%
39	馳せる	0.10773	0	0	100%	0.00%	0.00%
40	しゃがみ込む	0.10256	0	0	100%	0.00%	0.00%
41	横たえる	0.09717	0	0	100%	0.00%	0.00%
42	惚れる	0.09689	0	0	100%	0.00%	0.00%
43	瞬く	0.08769	0	0	100%	0.00%	0.00%
44	見積もる	0.0875	0	0	100%	0.00%	0.00%
45	貸し出す	0.08587	0	0	100%	0.00%	0.00%
46	居合わせる	0.08257	0	0	100%	0.00%	0.00%
47	畏まる	0.08125	0	0	100%	0.00%	0.00%
48	悔やむ	0.08115	0	0	100%	0.00%	0.00%

49	恥じる	0.08071	0	0	100%	0.00%	0.00%
50	隔てる	0.07995	0	0	100%	0.00%	0.00%

「ている」に前接する動詞のうち、「ていく」「てくる」には前接しない動詞として、161 個の動詞があった。そのうち、この 161 個の動詞について、出現数（全体の使用数で補正した数値）の大きい順に並び替えたのが上の表 3-5 である（表 3-5 では、161 個の動詞のうち、上位 50 個を挙げている）。例えば、「待ち構える」の場合、「待ち構える」での出現数が 427 件であるが、「待ち構えている」は 328 件であり、除算した 0.76 が「ている」が付きやすいものであることを意味する数値となっている。

では、幾つか用例を見ていこう。次の例は、ランキング上 1 位～5 位の動詞である「待ち構える」「待ち受ける」「横たわる」「佇む」「目論む」に「ている」が後続している例である。

- (50) 「有名病」の患者が期待するものとはまさに正反対の明日が待ちかまえていることを覚悟の上の同居である。

(沢地久枝(著)『昭和史のおんな』文芸春秋・1986)

- (51) いや、外では、俺が帰って来るのを待ちかまえているだろう。今出て行けば、もろに捕まる。

(赤川次郎(著)『愛情物語』角川書店・1983)

- (52) 戦場には先に到着せよ〈先に戦場へ到着して敵を待ちうけているほうはゆとりがあり、後から戦場にかけては苦しい…

(村山孚(著)『中国古典百言百話』PHP 研究所・1987)

- (53) 彼女たちはなにがしかの買物のためにスーパー・マーケットが開かれるのを待ちうけているのであろう。

(大江健三郎(著)『万延元年のフットボール』講談社・1988)

- (54) 千五百～二千五百メートル級の山々が南北を分断し、四百キロにわたって横たわっている。

(分担不明『NHK 大黄河』日本放送出版協会・1986)

- (55) 歴史を感じないわけにはいかない。歴史がかなりまとまって、そこに

横たわっているかんじなのだ。

(陳舜臣(著)『陳舜臣全集』講談社・1986)

- (56) 貴子など比較にならないほどの傷を受けて、静かに佇んでいる女がいる。

(乃南アサ(著)『鎖』新潮社・2003)

- (57) いつか起業しようと目論んでいる者も多い。

(山本直人(著)『話せぬ若手と聞けない上司』新潮社・2005)

一方、以下は、「待ち構える」「待ち受ける」「横たわる」が単独で使われている例である。

- (58) 以来、数分後に襲ってくる本番の前にすべての始末を終え、待ち構える余裕さえ身に付けたのである。

(野町和嘉(著)『サハラ縦走』岩波書店・1993)

- (59) 私は、私たちめがけて殺到するであろう面罵のことばの数々を、じっと待ち受ける気持になった。そのときに、私は、セチェン王に会うであろう。

(中野美代子(著)『契丹伝奇集』日本文芸社・1989)

- (60) 何を、いかに教えるかとなると、対立はまだ深い。性教育は根底に横たわる価値観の問題を避けては通れないからだ。

(ホーン川嶋瑤子(著)『女たちが変えるアメリカ』岩波書店・1988)

- (61) 「小宰、何しておいやる…」舟上に佇む遊女が、扇を小手にかざしつつ、声を投げかけた。

(邦光史郎(著)『源九郎義経』学陽書房・2004)

- (62) 公的年金のカットとダブルパンチを受けることになる。もし政府が目論む通りに公的年金が減らされれば、企業年金と合わせて月額十万円カットが…

(実著者不明『週刊ポスト』小学館・2003)

- (63) 茨城県動物指導センターに収容された犬猫のうち、一般家庭での飼育に適すると思われる子犬と子猫の譲渡会を行います。

(『広報つくばみらい』茨城県つくばみらい市・2008)

(64) 鉄骨を組みあげた高さ三百メートルのエッフェル塔が、パリの町を見おろすように聳えることになるのである。

(福井憲彦(著)『ヨーロッパ近代の社会史』岩波書店・2005)

動詞の語彙アスペクトの面から言えば、「待ち構える」や「待ち受ける」は、動作動詞(継続動詞)に分類されると言えるが(金田一 1950)、たとえば、動作の進行を示す副詞「どんどん」との共起不可能性が示す通り(例:「\*どんどん待ち構える」「\*どんどん待ち受ける」「\*どんどん佇む」「\*どんどん目論む」)、〈動作的〉な意味合いが弱い動詞であると言える(これとは対照的に、〈動作的〉な意味合いが強い動詞では、「どンドン走る」「どンドン書く」のように、「どンドン」との共起は自然である)。また、「横たわる」「適する」は、「そびえる」などのいわゆる「第四種の動詞」(金田一 1950)に含められ得る動詞であり、「横たわっている」と「ている」形にしても意味がほとんど変わらないことから、やはり〈状态的〉な意味合いが強い動詞と言える。

ここでは、さらに、「ている」以外にも、「てくる」「ていく」で使われる動詞を対象として、「ている」の比率が多い順のランキング 162 位以降の動詞ランキングを作成した。次の表 3-6 を参照されたい。

表 3-6 「ている」の比率が多い順(分析可能)

NO.	語彙素	ている	ていく	てくる	ている比率	ていく比率	てくる比率
162	潜む	0.55645	0.0009	0	99.84%	0.16%	0.00%
163	困る	0.1916	0	0.0003	99.83%	0.00%	0.17%
164	持ち合わせる	0.7336	0.00199	0	99.73%	0.27%	0.00%
165	優れる	0.23533	0	0.0008	99.66%	0.00%	0.34%
166	物語る	0.56121	0.00098	0.001	99.65%	0.17%	0.17%
167	知る	0.17742	0.0005	0.0001	99.65%	0.28%	0.07%
168	恐れる	0.14908	0	0.0005	99.64%	0.00%	0.36%
169	住む	0.40123	0.00042	0.0011	99.63%	0.10%	0.27%
170	願う	0.03941	4.91E-05	9.83E-05	99.63%	0.12%	0.25%
171	来る	0.05643	0.00015	6.72E-05	99.61%	0.27%	0.12%

172	待つ	0.23851	0.00025	0.0007	99.58%	0.10%	0.31%
173	至る	0.09228	9.64E-05	0.0003	99.58%	0.10%	0.31%
174	間違う	0.36742	0.00026	0.0013	99.57%	0.07%	0.36%
175	嫌う	0.09942	0	0.0004	99.55%	0.00%	0.45%
176	富む	0.17998	0	0.0008	99.53%	0.00%	0.47%
177	有する	0.18138	0	0.0009	99.52%	0.00%	0.00%
178	属する	0.16369	0	0.0008	99.48%	0.00%	0.52%
179	呉れる	0.03604	4.54E-05	0.0002	99.46%	0.13%	0.42%
180	心得る	0.44567	0	0.0024	99.46%	0.00%	0.54%
181	眠る	0.21646	0.00119	0	99.45%	0.55%	0.00%
182	蹲る	0.33814	0.00206	0	99.39%	0.61%	0.00%
183	行き届く	0.31042	0.00208	0	99.33%	0.67%	0.00%
184	耽る	0.29102	0	0.002	99.33%	0.00%	0.67%
185	立ち尽くす	0.37121	0	0.0025	99.32%	0.00%	0.68%
186	飛び回る	0.35049	0	0.0025	99.31%	0.00%	0.69%
187	見込む	0.09246	0	0.0007	99.30%	0.00%	0.70%
188	座る	0.26105	0.00093	0.0009	99.29%	0.35%	0.35%
189	長ける	0.43344	0.0031	0	99.29%	0.71%	0.00%
190	並ぶ	0.25959	0.00107	0.0008	99.28%	0.41%	0.31%
191	企む	0.37057	0.00272	0	99.27%	0.73%	0.00%
192	秘める	0.29064	0	0.0022	99.26%	0.00%	0.74%
193	動き回る	0.22222	0	0.0017	99.25%	0.00%	0.75%
194	見入る	0.3787	0.00296	0	99.22%	0.78%	0.00%
195	立ち並ぶ	0.23872	0.00188	0	99.22%	0.78%	0.00%
196	鳴る	0.09276	0	0.0007	99.21%	0.00%	0.79%
197	悩む	0.33613	0	0.0027	99.20%	0.00%	0.80%
198	含む	0.05178	0.00042	0	99.19%	0.81%	0.00%
199	黙る	0.26433	0.00194	0.0002	99.19%	0.73%	0.08%
200	飼う	0.34772	0	0.0029	99.19%	0.00%	0.81%



この表3-6では、「てくる」「ていく」と比べて「ている」がどの動詞と頻繁に共起して使われているのかが明瞭に読み取れる。「ている」において最も多く使用されたのは、動作よりも状態に近い意味を持つ「潜む」「困る」「待ち合わせる」などの動詞である。

(65) 穏やかに見える空も気流の乱れという魔物が潜んでいるのだ。その存在を示してくれるのが雲なのである。

(平沼洋司(著)『空を見る』筑摩書房・2001)

(66) このケースの裏には、とんでもない事柄が潜んでいる。

(森詠(著)『北のレクイエム』青樹社・1986年)

(67) つまり、こういうカラクリだ。貴子が乳飲み児を抱えて生活に困っている現状では、たとえ英子が裁判に勝っても現実には貴子からお金は…

(佐藤むつみ(著)『弁護士む～みんの解決！女の一大事』集英社・2004)

(68) もっともっとみんな立ち上がらなければならないということ。そして、困っている近所や友人宅へ駆けつけて、してあげるんじゃない…

(石井健太郎、指田志恵子(共著)田辺順一(写真)『この光る心をみよ』あけび書房・1986)

(69) オックスフォードに着いたとき予定から一時間も遅れていた。バス停で待ち合わせているはずの伝記作者ホッジス氏の姿はなかった。

(星野力(著)『甦るチューリング』NTT出版・2002)

(70) 由美子とは、午後六時に高田馬場駅の喫茶店で待ち合わせていた。

(藤田宜永(著)『愛さずにはいられない』集英社・2003)

一方、以下は、「潜む」「困る」「待ち合わせる」が単独で使われている例である。

(71) 梅田は相変らず、角材を立てめぐらした隠れ場所に潜んだままで得意そうに笑った。

(山岡荘八(著)『坂本竜馬』講談社・1968)

(72) 質問に対し松本さんがかえした答えが忘れられない。「訳すのに、一番困るのは『インタレスト』です。

(松本重治(著)『昭和史への一証言』毎日新聞社・1986)

(73) 渋谷のハチ公の銅像前で木山と待ち合わせたことがあったのを、ちらっと思い出しながら受話器を置いた。

(三浦浩(著)『消されたスクープ』集英社・1990)

動詞の語彙アスペクトの面から言えば、「潜む」「困る」「待ち合わせる」は、動作動詞(継続動詞)に分類されるが、先に示したのと同様の動作の進行を示す副詞「どんどん」との共起テストの結果が示す通り(例:「\*どんどん潜む」「\*どんどん困る」「\*どんどん待ち合わせる」)、これらの動詞は、〈動作的〉な意味合いが弱く、〈状态的〉な意味合いが強い動詞と言える。

以上の分析から、次のことが結論づけられる。すなわち、補助動詞「ていく」「てくる」「ている」の意味は、前項動詞の意味にただ単純に付加されるのではなく、前項動詞の本来持っている意味を強化する作用がある。例えば、「押し寄せてくる」を例にすると、前項動詞「押し寄せる」はそれ自体ある対象が「激しい勢いで迫る／近づく」といった意味を表しており、そこに「てくる」が付加されることで、その対象が「話者方向へと近づく」意味が付け加わり、〈近づく〉の意味がより強化されている。このことは、「ていく」「てくる」「ている」等の状態・移動系のアスペクトの性質は、それが接続する動詞との関係が深いという意味において、ヴォイスと似た側面があることを強く示唆するものである。例えば、〈受動〉の「れる・られる」は、非対格自動詞には付きにくいというようなことに現れ、ヴォイスも動詞本来のヴォイス的性格に大きく影響される(例えば、自然にそうなるという意味の「溶ける」には、同じく自発的な「られる」が付かない点など)。それに対して、過去テンスの助動詞「た」や推量などのモダリティの助動詞はどんな動詞にも自由に接続することができる。状態・移動系のアスペクトの性質は、それが接続する動詞との関係が深いという意味において、ヴォイスと似た側面があるとみなすことができる。

### 3.6 まとめ

本章では、BCCWJ のデータをもとに、「ていく」「てくる」「ている」の前接語の種類について考察を行い、主に、以下の点を明らかにした。

1. (i) 「ていく」とのみ共起する前項動詞として「走り去る」「通り過ぎる」「去る」などが挙げられるが、これらの動詞は、ある対象から《離れる》という意味を含んでおり、「ていく」に似た意味特徴を有する。(ii) 「てくる」のみと共起する前項動詞として「込み上げる」「湧き上がる」「押し寄せる」などが挙げられるが、これらの動詞は、ある対象に《近づく》意味を含んでおり、「てくる」に似た意味特徴を有する。(iii) 「ている」のみと共起する前項動詞として「潜む」「困る」「待ち合わせる」などが挙げられるが、これらの動詞は、《状態的な動作》を表しており、その意味で「ている」に似た意味特徴を有する。
2. 補助動詞「ていく」「てくる」「てくる」の意味は、動詞の意味にただ単純に付加されるのではなく、動詞の本来持っている意味を強化する作用がある。このことは、「ていく」「てくる」「てくる」等の状態・移動系のアスペクトの性質は、それが接続する動詞との関係が深いという意味において、テンスやモダリティよりもヴォイスに近い性質を持つ。

## 第4章

### 「ていらっしゃる」の前項動詞の種類

#### 4.1 はじめに

本章では、「ていらっしゃる」の前項動詞の種類について考察を行う。具体的には、「ていらっしゃる」と共起しやすい前接語の特徴を明らかにする。予め本章で得られた結論を示すと以下の通りである。

第1に、前項動詞の種類に着目した場合、〈テイル〉に解釈される「ていらっしゃる」は、幅広い種類の前項動詞と共起しており、特定の動詞群への偏りは特に見られないのに対して、〈テクル〉に解釈される「ていらっしゃる」は、限られた種類の動詞とのみ共起している（〈テイク〉に解釈される「ていらっしゃる」に前接する動詞はさらに限定される）。

第2に、「ていらっしゃる」が〈テクル〉に解釈される場合、その前項動詞と後項動詞「いらっしゃる」との関係は、主に、「同時移動」「継起移動」「移動の方向づけ」の3つに集約される。このことは、〈テクル〉に解釈される「ていらっしゃる」は、基本的に「空間的移動」の意味が保持されており、（非敬語形の「てくる」に比べ）意味の抽象化（文法化）が進んでいないことを示唆する。

第3に、補助動詞「ていらっしゃる」では、〈テイル〉に解釈される例が最も多く、次に〈テクル〉に解釈される例が続くが、〈テイク〉に解釈される例はほぼ存在しない。基本的に同様の分布の傾向（意味の偏り）は本動詞「いらっしゃる」にも認められるが、補助動詞「いらっしゃる」においては、本動詞「いらっしゃる」以上に、意味領域の縮小が進行している可能性がある。

#### 4.2 「ていらっしゃる」の前項動詞の種類

本研究では、下記の検索条件のもと BCCWJ から「ていらっしゃる」の用例を抽出した。

- (74) a. 前方共起 1 は「キーから」「2」「語」に設定し、「品詞」の「大分類」が「動詞」と設定。
- b. 前方共起 2 を「キーから」「1」「語」に設定し、「書字形出現形」が「て」AND「品詞」の「大分類」が「助詞」に設定。
- c. キーは「語彙素」が「いらっしゃる」になるよう設定。

上記の検索条件から、「ていらっしゃる」の例文が合計 1,772 件得られた。この 1,772 件を以下の方法で処理する。まず、1,772 件の例文から「ていらっしゃる」に前接する動詞を抽出する。次に、得られたデータを UTF-8 に変更し、テキストファイルとして保存する。さらに、Colaboratory で件数を確認する。

また、操作方法は以下の通りである。

ファイルを選択 (UTF - 8 形式)

```
from google.colab import files
```

```
uploaded = files.upload()
```

データを抽出

```
lines = []
```

```
count = 0
```

```
oldcount = 0
```

```
datafile = open('「ていらっしゃる」の前にある動詞.csv')
```

```
for line in datafile:
```

```
    line = line.rstrip()
```

```
    lines.append(line)
```

```
    lines.sort()
```

```

for line in lines:
    print(line)
並び替えを開始する
count = 0
oldcount = 0
oldword = ''
lines = []
datafile = open('「ていらっしゃる」の前にある動詞.csv',
encoding='utf_8_sig')
for line in datafile:
    line = line.rstrip()
    lines.append(line)
lines.sort()
for word in lines:
    if oldword == word:
        count += 1
    else:
        count = 1
        if oldcount != '':
            print(oldword,oldcount)
        oldword = word
        oldcount = count

```

次の表 4-1 は、「ていらっしゃる」の前項動詞の種類とその頻度を表している。

表 4-1 「ていらっしゃる」の例文で使用された前項動詞

No.	動詞	件数	No.	動詞	件数	No.	動詞	件数	No.	動詞	件数	No.	動詞	件数
1	する	384	91	眠る	3	181	たつ	1	271	思い出す	1	361	逃げる	1
2	なる	90	92	置く	3	182	つかう	1	272	恐る	1	362	連ねる	1
3	考える	88	93	見守る	3	183	できる	1	273	恥じる	1	363	逸る	1
4	思う	70	94	集まる	3	184	でる	1	274	悔いる	1	364	過ごす	1
5	持つ	68	95	集める	3	185	とがめる	1	275	悩ます	1	365	違う	1
6	やる	55	96	震える	3	186	とどまる	1	276	感づく	1	366	鎮める	1
7	覚える	41	97	ある	2	187	とぼける	1	277	手がける	1	367	開く	1
8	知る	33	98	いく	2	188	なする	1	278	打ち出す	1	368	関わる	1
9	書く	25	99	いただく	2	189	なつく	1	279	打ち消す	1	369	降りる	1
10	使う	22	100	からかう	2	190	なめる	1	280	払う	1	370	除く	1
11	なさる	21	101	きく	2	191	ねらう	1	281	抜ける	1	371	靠れる	1
12	見る	20	102	きる	2	192	のこす	1	282	押さえる	1	372	預かる	1
13	言う	19	103	こなす	2	193	はずす	1	283	担う	1	373	預ける	1
14	出る	18	104	こまる	2	194	ひかえる	1	284	持ち合わせる	1	374	鳴く	1
15	帰る	17	105	とらえる	2	195	ひたる	1	285	捉える	1			
16	おっしゃる	15	106	なれる	2	196	ひもとく	1	286	掛ける	1			
17	わかる	15	107	みる	2	197	ふける	1	287	採る	1			
18	働く	15	108	もつ	2	198	ふせる	1	288	探す	1			
19	入る	14	109	並べる	2	199	ふやす	1	289	控える	1			
20	つく	13	110	受け取る	2	200	まとまる	1	290	提げる	1			
21	感じる	13	111	召しあがる	2	201	まとめる	1	291	揚げる	1			
22	聞く	13	112	外す	2	202	まわる	1	292	換える	1			
23	生きる	12	113	尋ねる	2	203	みつめる	1	293	数える	1			
24	出す	11	114	当たる	2	204	もがく	1	294	案じる	1			
25	待つ	11	115	心得る	2	205	もどる	1	295	構える	1			
26	行く	11	116	思いつめる	2	206	やつれる	1	296	歎く	1			
27	立つ	9	117	怯える	2	207	コケる	1	297	残す	1			
28	頑張る	9	118	患う	2	208	上がる	1	298	残る	1			
29	歩く	8	119	愛し合う	2	209	与える	1	299	気がつく	1			
30	受ける	7	120	戻る	2	210	乗り切る	1	300	気づく	1			
31	怒る	7	121	手伝う	2	211	乾く	1	301	泊まる	1			
32	暮らす	7	122	扱う	2	212	亡くなる	1	302	洗う	1			
33	来る	7	123	指す	2	213	仕える	1	303	浴びる	1			
34	つける	6	124	捜す	2	214	仕上がる	1	304	浸かう	1			
35	とる	6	125	携わる	2	215	仕入れる	1	305	測る	1			
36	入れる	6	126	支える	2	216	付き合う	1	306	満たす	1			
37	分かる	6	127	泣く	2	217	会う	1	307	溢れる	1			
38	受けとめる	6	128	流す	2	218	伸ばす	1	308	演じる	1			
39	愛する	6	129	照れる	2	219	余る	1	309	煮詰める	1			
40	慣れる	6	130	生まれかわる	2	220	倒れる	1	310	現れる	1			
41	憶える	6	131	申しあげる	2	221	優れる	1	311	生まれ変わる	1			
42	求める	6	132	痛める	2	222	凝らす	1	312	瘡せる	1			
43	笑う	6	133	目指す	2	223	分ける	1	313	登る	1			

44	続ける	6	134	着く	2	224	切り回す	1	314	直す	1			
45	育てる	6	135	示す	2	225	切り廻す	1	315	着替える	1			
46	食べる	6	136	立てる	2	226	切る	1	316	祈る	1			
47	おぼえる	5	137	耐える	2	227	加わる	1	317	立ちまわる	1			
48	かける	5	138	臥せる	2	228	動く	1	318	立ち働く	1			
49	乗る	5	139	見つける	2	229	勝つ	1	319	築く	1			
50	似る	5	140	触れる	2	230	占める	1	320	粘る	1			
51	作る	5	141	訪ねる	2	231	取り仕切る	1	321	経つ	1			
52	信じる	5	142	話す	2	232	取り分ける	1	322	続く	1			
53	座る	5	143	起きる	2	233	取り扱う	1	323	織る	1			
54	抱える	5	144	踊る	2	234	取る	1	324	聞き流す	1			
55	描く	5	145	返す	2	235	召し上がる	1	325	育つ	1			
56	答える	5	146	送る	2	236	召す	1	326	背負う	1			
57	述べる	5	147	連れる	2	237	叱る	1	327	興じる	1			
58	飼う	5	148	配る	2	238	合わせる	1	328	舞いおる	1			
59	つくる	4	149	間違える	2	239	名乗る	1	329	落ち着く	1			
60	もらう	4	150	隠す	2	240	向かう	1	330	著す	1			
61	務める	4	151	離れる	2	241	吸う	1	331	見きわめる	1			
62	困る	4	152	頼る	2	242	唱える	1	332	見せる	1			
63	挙げる	4	153	飾る	2	243	嘆く	1	333	見つめる	1			
64	教える	4	154	あがる	1	244	回る	1	334	見はる	1			
65	歌う	4	155	あてる	1	245	固める	1	335	見下ろす	1			
66	着る	4	156	あらわす	1	246	培う	1	336	見張る	1			
67	習う	4	157	いきる	1	247	売る	1	337	見抜く	1			
68	認める	4	158	いる	1	248	変わる	1	338	見過ごす	1			
69	調べる	4	159	いれる	1	249	太る	1	339	覗く	1			
70	迎える	4	160	うなづく	1	250	失う	1	340	言い切る	1			
71	通う	4	161	うる	1	251	存じる	1	341	訊く	1			
72	進める	4	162	おくる	1	252	守る	1	342	訪れる	1			
73	願う	4	163	おどろく	1	253	定める	1	343	訴える	1			
74	あげる	3	164	およう	1	254	宿る	1	344	詐る	1			
75	うなづく	3	165	おろす	1	255	寄せる	1	345	話しあう	1			
76	おりる	3	166	かえる	1	256	寝かしつけ	1	346	誉める	1			
77	がんばる	3	167	かしげる	1	257	届く	1	347	語る	1			
78	くる	3	168	かじる	1	258	差しかかる	1	348	説く	1			
79	ためらう	3	169	くだく	1	259	巻く	1	349	論じる	1			
80	つづける	3	170	くださる	1	260	廻る	1	350	謝る	1			
81	伝える	3	171	くださ	1	261	引きこもる	1	351	貫く	1			
82	借りる	3	172	くばる	1	262	張る	1	352	貼り付ける	1			
83	兼ねる	3	173	こもる	1	263	弾く	1	353	走る	1			
84	勤める	3	174	しつける	1	264	待ちわびる	1	354	起こす	1			
85	取り上げる	3	175	すぐれる	1	265	待ち受ける	1	355	越える	1			
86	忘れる	3	176	そむける	1	266	微笑む	1	356	跳ねる	1			
87	撮る	3	177	そろう	1	267	徹する	1	357	躡ける	1			
88	決める	3	178	たく	1	268	心がける	1	358	轟く	1			



89	疑う	3	179	たける	1	269	志する	1	359	迷う	1			
90	疲れる	3	180	たずねもとめる	1	270	思い乱れる	1	360	追う	1			

ここで得られた例文における「ていらっしやる」が文脈上、<テイク><テクル><テイル>のいずれに解釈されるかについて、前項動詞の種類別に分析を行ったところ、次の表4-2のような結果となった。

表4-2 「ていらっしやる」と<テイク><テクル><テイル>の関係性

No.	前項動詞	ていく	てくる	ている	No.	前項動詞	ていく	てくる	ている	No.	前項動詞	ていく	てくる	ている
1	愛し合う			○	183	つける			○	365	受ける			○
2	愛する			○	184	伝える			○	366	習う			○
3	会う			○	185	続ける			○	367	集まる		○	○
4	あがる		○	○	186	つづける		○	○	368	集める			○
5	あげる			○	187	勤める			○	369	出す			○
6	拳げる			○	188	務める			○	370	出る		○	○
7	揚げる			○	189	連ねる		○		371	述べる			○
8	預ける			○	190	連れる		○		372	書く			○
9	与える			○	191	手がける			○	373	勝つ			○
10	当たる			○	192	できる			○	374	召し上がる			○
11	扱う			○	193	手伝う			○	375	召す			○
12	集まる			○	194	でる		○	○	376	照れる			○
13	集める			○	195	出る		○	○	377	笑う			○
14	あてる			○	196	照れる				378	上がる		○	
15	溢れる			○	197	とがめる			○	379	飾る			○
16	余る			○	198	届く			○	380	織る			○
17	洗う			○	199	とどまる			○	381	食べる			○
18	あらわす			○	200	とぼける			○	382	信じる			○
19	現れる		○		201	泊まる			○	383	浸かう		○	
20	ある		○	○	202	とらえる			○	384	申しあげる			○
21	歩く		○	○	203	取り上げる			○	385	進める			○
22	歩く		○	○	204	取り仕切る			○	386	震える			○
23	合わせる			○	205	取り分ける			○	387	訊く			○
24	案じる			○	206	とる			○	388	生きる			○
25	言い切る			○	207	探る			○	389	生まれかわる			○
26	言う			○	208	撮る			○	390	生まれ変わる			○
27	いきる			○	209	取る			○	391	説く			○
28	生きる			○	210	直す			○	392	捜す			○
29	いく		○	○	211	流す			○	393	走る			○
30	行く		○	○	212	泣く			○	394	捉える			○
31	いただく			○	213	鳴く			○	395	続く			○
32	痛める			○	214	亡くなる			○	396	続ける			○
33	祈る			○	215	なざる			○	397	太る			○
34	いる			○	216	なずる			○	398	耐える			○
35	入れる			○	217	なつく			○	399	待ちわびる			○
36	入れる			○	218	なめる			○	400	待ち受ける			○
37	思い乱れる			○	219	悩ます			○	401	待つ			○
38	受けとめる			○	220	習う			○	402	嘆く			○
39	受け取る			○	221	並べる			○	403	担う			○
40	受ける			○	222	なる			○	404	歎く			○
41	失う			○	223	なれる			○	405	弾く			○
42	歌う			○	224	慣れる			○	406	知る			○

43	唱える		○	225	煮詰める		○	407	恥じる		○
44	疑う		○	226	似る		○	408	着る		○
45	打ち消す		○	227	願う		○	409	着替える		○
46	打ち出す		○	228	寝かしつける		○	410	著す		○
47	訴える		○	229	粘る		○	411	調べる		○
48	うなづく		○	230	ねらう		○	412	鎮める		○
49	うなづく		○	231	のこす		○	413	痛める		○
50	うる		○	232	残る		○	414	通う		○
51	売る		○	233	除く		○	415	提げる		○
52	描く		○	234	覗く		○	416	徹する		○
53	演じる		○	235	伸ばす		○	417	伝える		○
54	追う		○	236	述べる		○	418	怒る		○
55	起きる		○	237	登る		○	419	逃げる		○
56	置く		○	238	乗り切る		○	420	働く		○
57	おくる		○	239	乗る		○	421	入る		○
58	送る		○	240	入る	○	○	422	入れる		○
59	起こす		○	241	測る		○	423	認める		○
60	怒る		○	242	はずす		○	424	培う		○
61	押さえる		○	243	外す		○	425	抜ける		○
62	教える		○	244	働く		○	426	疲れる		○
63	恐る		○	245	話しあう		○	427	分かる		○
64	おっしゃる		○	246	話す		○	428	聞く		○
65	訪れる		○	247	離れる		○	429	返す		○
66	おどろく		○	248	跳ねる		○	430	歩く		○
67	怯える		○	249	払う		○	431	暮らす		○
68	憶える		○	250	貼り付ける		○	432	抱える		○
69	覚える		○	251	張る		○	433	訪ねる		○
70	おぼえる		○	252	ひかえる		○	434	忘れる		○
71	思う		○	253	引きこもる		○	435	眠る		○
72	思う		○	254	ひたる		○	436	務める		○
73	およう		○	255	ひもとく		○	437	名乗る		○
74	おりる		○	256	開く		○	438	黙る		○
75	降りる		○	257	ふける		○	439	目指す		○
76	おろす		○	258	ふせる		○	440	戻る		○
77	飼う		○	259	臥せる		○	441	誉める		○
78	かえる		○	260	ふやす		○	442	預かる		○
79	換える		○	261	震える		○	443	踊る		○
80	帰る		○	262	触れる		○	444	浴びる		○
81	抱える		○	263	微笑む		○	445	来る		○
82	関わる		○	264	舞いおりる		○	446	落ち着く		○
83	書く		○	265	間違える		○	447	離れる		○
84	描く		○	266	間違える		○	448	立ちまわる		○
85	かける		○	267	待つ		○	449	立ち働く		○
86	掛ける		○	268	まとまる		○	450	立てる		○
87	かしげる		○	269	まとめる		○	451	話す		○
88	かじる		○	270	守る		○	452	瘠せる		○
89	数える		○	271	迷う		○	453	躡ける		○
90	固める		○	272	まわる		○	454	靠れる		○
91	語る		○	273	回る		○				
92	兼ねる		○	274	廻る		○				
93	通う		○	275	見下ろす		○				
94	からかう		○	276	見きわめる		○				
95	借りる		○	277	見過ごす		○				

96	変わる		○	278	見せる	○													
97	考える		○	279	満たす		○												
98	感じる		○	280	見つける		○												
99	がんばる		○	281	見つめる		○												
100	頑張る		○	282	みつめる		○												
101	聞き流す		○	283	認める		○												
102	きく		○	284	見はる		○												
103	聞く		○	285	見守る		○												
104	気づく		○	286	みる		○												
105	決める		○	287	見る	○	○												
106	切り廻す		○	288	向かう		○												
107	切り回す		○	289	迎える		○												
108	きる		○	290	目指す		○												
109	切る		○	291	召しあがる		○												
110	着る		○	292	もがく		○												
111	生まれかわる		○	293	もつ		○												
112	くだく		○	294	持つ	○	○												
113	くださる		○	295	求める		○												
114	くだす		○	296	もどる		○												
115	くばる		○	297	戻る	○													
116	配る		○	298	もらう		○												
117	暮らす		○	299	やつれる		○												
118	くる		○	300	宿る		○												
119	来る		○	301	やる	○	○												
120	構える		○	302	寄せる		○												
121	越える		○	303	論じる		○												
122	コケる		○	304	わかる		○												
123	心がける		○	305	分ける		○												
124	心得る		○	306	患う		○												
125	答える		○	307	忘れる		○												
126	こなす		○	308	笑う		○												
127	こまる		○	309	愛する		○												
128	困る		○	310	育てる		○												
129	こもる		○	311	逸る		○												
130	探す		○	312	隠す		○												
131	支える	○	○	313	憶える		○												
132	差しかかる		○	314	加わる		○												
133	指す		○	315	歌う		○												
134	定める		○	316	臥せる		○												
135	仕上がる		○	317	悔いる		○												
136	仕入れる		○	318	外す		○												
137	叱る		○	319	覚える		○												
138	しつける		○	320	乾く		○												
139	示す		○	321	巻く		○												
140	占める		○	322	患う		○												
141	調べる		○	323	感じる		○												
142	知る		○	324	感づく		○												
143	信じる		○	325	慣れる		○												
144	吸う		○	326	貫く		○												
145	すぐれる		○	327	帰る	○	○	○											
146	優れる		○	328	気がつく		○												
147	過ごす		○	329	疑う		○												
148	進める	○	○	330	求める		○												

149	する		○	○	331	泣く			○					
150	座る			○	332	教える			○					
151	背負う			○	333	興じる			○					
152	育つ			○	334	凝らす			○					
153	育てる			○	335	勤める			○					
154	そむける			○	336	携わる			○					
155	そろう			○	337	経つ			○					
156	存じる			○	338	迎える			○					
157	耐える			○	339	兼ねる			○					
158	倒れる			○	340	見る		○	○					
159	たく			○	341	見守る			○					
160	たける			○	342	見張る			○					
161	出す		○	○	343	見抜く			○					
162	出す			○	344	言う			○					
163	尋ねる		○		345	控える			○					
164	訪ねる		○		346	考える			○					
165	たずねもとめる		○	○	347	行く		○	○					
166	尋ねる		○		348	轟く			○					
167	たつ			○	349	詐る			○					
168	立つ			○	350	残す			○					
169	食べる		○	○	351	仕える			○					
170	黙る			○	352	使う			○					
171	ためらう			○	353	志する			○					
172	頼る			○	354	思いつめる			○					
173	違う			○	355	思い出す			○					
174	つかう			○	356	思う			○					
175	使う			○	357	似る			○					
176	疲れる			○	358	持ち合わせる			○					
177	付き合う			○	359	持つ		○	○					
178	つく		○	○	360	謝る		○	○					
179	築く			○	361	借りる			○					
180	着く			○	362	取り扱う			○					
181	つくる			○	363	取り上げる			○					
182	作る			○	364	受けとめる			○					

前項動詞の種類に着目した場合、＜テイル＞に解釈される「ていらっしやる」は、幅広い種類の前項動詞と共起しており、特定の動詞群への偏りは特に見られないのに対して、＜テクル＞に解釈される「ていらっしやる」は、限られた種類の動詞とのみ共起している（＜テイク＞に解釈される「ていらっしやる」は、本調査では「歩く」と共起した例のみである。この点については後述する）。

すなわち、＜テイル＞に解釈される「ていらっしやる」の場合、その前項動詞には、「歩く」（歩いていらっしやる）、「通う」（通っていらっしやる）、「食べる」（食べていらっしやる）、「直す」（直していらっしやる）、「手伝う」（手伝っていらっしやる）などのような動作的意味合いの強い動詞から、「愛する」（愛していらっしやる）、「知る」（知っていらっしやる）、「恥じ

る」(恥じていらっしゃる)、「思う」(思っ<sub>て</sub>いらっしゃる)、「分かる」(分かっ<sub>て</sub>いらっしゃる)、「痩せる」(痩せ<sub>て</sub>いらっしゃる)などのような相対的に動作的意味合いの弱い動詞(ないしは、相対的に状態的性質が強い動詞)まで、多種多様な動詞が生起している。以下、幾つか用例を挙げる。

<テイル>に解釈される「ていらっしゃる」の例：

(75) このうち、多い人では週十七時間持っ<sub>て</sub>いらっしゃる。それでも、私学共済の加入はだめというふうになっているのです。

(国会会議録・1999)

(76) やったことありますよね。ナンシーさんは、ステッドラーの大きな消しゴムを使っ<sub>て</sub>いらっしゃるんでしょう。

(ナンシー関(著)佐藤友紀(著)小宮悦子(著)『無差別級』

河出書房新社・2003)

(77) この「当分の間、」という意味は一体どの程度考<sub>え</sub>ていらっしゃるのか。

(国会会議録・1983)

(78) そのことにびっくりして後からかこつけて理<sub>由</sub>をつ<sub>け</sub>ていらっしゃるけれども、そのことが私は本音ではないかと思うんだけど…

(国会会議録、1998)

(79) この頃、家族の皆様はいつにも増して活気に満ちた時間を過<sub>ご</sub>していらっしゃることと思います。

(Yahoo!・Yahoo!ブログ・2008)

(80) 池田洋館などはあまりにも有名で尚かつ現在も普通に人様が住<sub>ま</sub>われていらっしゃるので軽く見ながら通り過ぎることにした。

(Yahoo!・Yahoo!ブログ・2008)

(81) 済んだ後、喫茶店にたむろしたお母さんグループが大きな声で話<sub>し</sub>あっていらっしゃる光景によく出くわします。

(切明悟(著)『探検・子どもの勉強の世界』東方出版・2001)

(82) シュヴァルツェンベルクが、意外な知識を披露した。「あなたそんな所に通<sub>っ</sub>ていらっしゃるの!?!とんでもない!」ゾフィーはこれま

た却下した。

(ミヒヤエル・クンツェ (原作) 小池修一郎(著)『エリザベート』  
角川書店・1996)

(83) 状況について、あなたの現在の生活はどれに近いですか。結婚していらっしゃる場合は配偶者の親を含めてお答えください。」

(内閣府・『国民生活白書』ぎょうせい・2003)

(84) 彼女は自分で答えていた。「あなたは必要があるから滞在していらっしゃるのです」 彼はこの返事にとびついた。

(ヘンリー・ジェイムズ(著)青木次生 (訳)『鳩の翼』講談社・1997)

次に、「テクル」に解釈される「ていらっしゃる」の前項動詞の特徴について見てみよう。ここでは、「ていらっしゃる」が「テクル」に解釈される用例について、澤田 (2016) の「てくる」の用法の分類を援用する形で検討する。

第 1 章で紹介した通り、澤田 (2016) では、「てくる」の用法が次の 7 つに分類されている。

- (85) a. ここまでバスに乗ってきた。 (同時移動)  
b. 駅前でパンを買ってきた。 (継起移動)  
c. ナイフを持った男が近づいてきた。 (移動の方向づけ)  
d. これまで 30 年間の会社で働いてきた。 (継続型アスペクト)  
e. 川の水嵩がだんだん増えてきた。 (変化型アスペクト)  
f. 急に雨が降ってきた。 (非意図的事象の出現)  
g. 太郎が僕に本を送ってきた。 (行為の方向づけ)  
(澤田 2016:87)

この分類に当てはめて考えてみた場合、「ていらっしゃる」が「テクル」に解釈される場合、その前項動詞と後項動詞「いらっしゃる」との関係は、主に、「同時移動」、「継起移動」「移動の方向づけ」の 3 つであると言える。以下に用例を挙げる。

「同時移動」：

「連れる＋ていらっしゃる」の例

(86) 大使の宣誓は大統領自身が執り行ないたいんだそうだ。ティムとベスも連れていらっしゃい」オーバルオフィスは報道関係者たちでいっばいだった。

(シドニイ・シェルダン(著)天馬竜行(訳)『神の吹かす風』  
アカデミー出版・1996)

「継起移動」：

「見る＋ていらっしゃる」の例

(87) この同胎犬は、とっくに肩高二尺、体重十貫になってるんですけどね。せめて、八貫くらいにはなっても、いいんだけど、もう無理だ。むつかしい…！」 「その同胎犬はどこにいるんですか？」 「行って見ていらっしゃい」と言って、須崎はくわしく地図を書いて島村に渡した。

(近藤啓太郎(著)『犬バカものがたり』ペップ出版・1988)

「移動の方向づけ」：

「帰る＋ていらっしゃる」の例

(88) 金鉱を捜し当てて、何百万というお金をもうけたうえ、こちらへ帰っていらっしゃるのです。そうして、りっぱな事業家になって、わたしたちを導いて…

(清水孝純(著)『新たなる出発』九州大学出版会・2001)

「出る＋ていらっしゃる」の例

(89) 「幹太、ベルナ、かくれていてもだめよ。出ていらっしゃい」ななえさんは小さな声でいいました。

(郡司ななえ(作)高橋貞二(画)『がんばれ！盲導犬ベルナ』

「入る+いらっしゃる」の例

(90) 真ん中に集めているのです。お客さまは、入口の真ん中から入って  
いらっしゃるのです。さかんにお客さまがきてくださっているとき  
ですから、ゴミをすみへ掃きよせるくらいのことは、常識的にみても  
当たり前だろうと思います。

(伊藤雅俊(著)『商いの心くばり』講談社・1987)

澤田(2016)によれば、「てくる」の7つの用法のうち、「同時移動」「継起移動」「移動の方向づけ」の3つは、いずれも「空間的移動」の意味が(多かれ少なかれ)保持された用法であるとされる。この点を踏まえるならば、<テイク>に解釈される「ていらっしゃる」は、主に「同時移動」「継起移動」「移動の方向づけ」の3つの用法に集約されることから、基本的に「空間的移動」の意味が保持されており、(非敬語形の「てくる」に比べ)意味の抽象化(文法化)が進んでいないことがわかる。

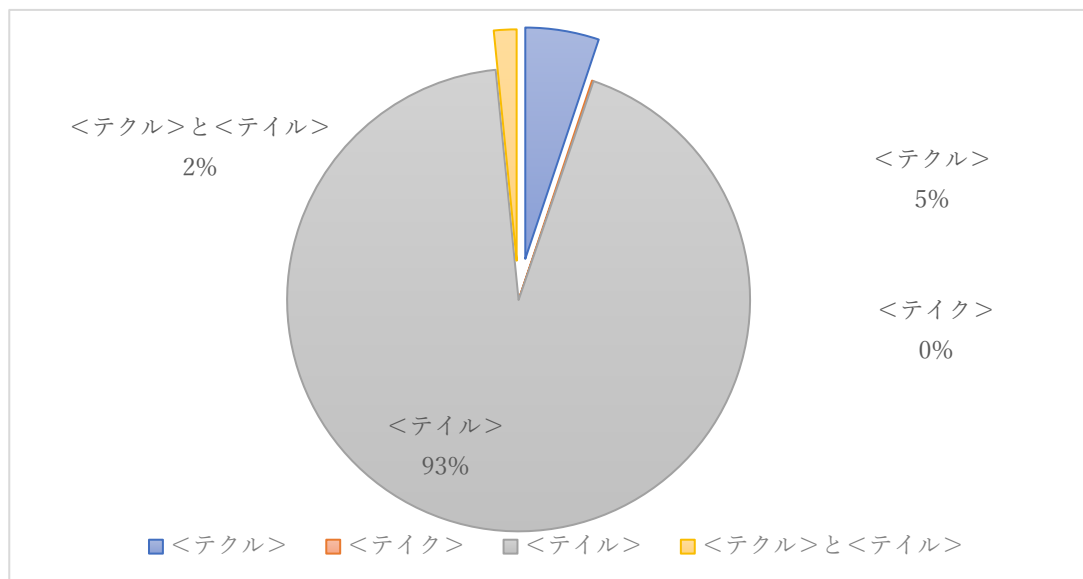
なお、「ていらっしゃる」が<テイク>に解釈される例は次の2例のみであったが、前項動詞は「歩く」「帰る」であることから、「同時移動」「移動の方向づけ」の用法であることがわかる。<テイク>に解釈される「ていらっしゃる」でも、やはり、「空間的移動」の意味が保持されており、意味の抽象化(文法化)が進んでいないことがわかる。

#### 4.3 「ていらっしゃる」における意味の偏り

次に、「ていらっしゃる」の意味の偏りについて見てみよう。一般に、「ていらっしゃる」は、<テイク><テクル><テイル>の尊敬語とされるが、実際の使用においては、大きな偏りが見られる。本研究では、BCCWJ内に見られる「ていらっしゃる」が<テイク><テクル><テイル>のいずれに解釈されるかを調査した。その結果を表4-3に示す。



表 4-3 「ていらっしゃる」が例文で使用される場合  
 <テイク><テクル><テイル> の割合



この内訳の数値を改めて示すと次の通りとなる。

- (91) a. 「ていらっしゃる」が<テイク>の解釈ができる例文は2件、全体の約0.11%
- b. 「ていらっしゃる」が<テクル>の解釈ができる例文は88件、全体の約4.97%
- c. 「ていらっしゃる」が<テイル>の解釈ができる例文は1,655件、全体の約93.40%
- d. 「ていらっしゃる」が<テクル>と<テイル>のどちらにも解釈可能な例文（どちらの解釈かが決め難い例文）は27件、全体の約1.52%

すなわち、BCCWJに現れる「ていらっしゃる」では、<テイル>に解釈される例が最も多く、次に<テクル>に解釈される例が続くが、<テイク>に解釈される例はわずか2例に留まっており、ほぼ存在しないことがわかる。

次は、<テイク>に解釈される「ていらっしゃる」の例である。

(92) 何日ぐらいかかったものか、それははっきりわかりませんが、とにかくやがて一行は目ざす場所にたどりつき、森の番人は王さまにむかって、「あれが、その木でございます。」と、申しあげました。王さまはいかだをとめさせ、大ぜいのおともの人々をしたがえて、マンゴの木の方へ歩いていらっしやいました。そうして、木の根もとにベッドをしつらえさせ、マンゴの実をたくさんめしあがって、そのすばらしい味わいをこころゆくばかり楽しんで、そこでおやすみになりました。

(辻直四郎, 渡辺照宏 (訳) 『ジャータカ物語』岩波書店・1987)

(93) 晩ごはんがすむと、王さまは横になりたくなかったので、おつきの者に、「もうさがってもよろしい。」と、おおせになって、ひとりで寝室へ帰っていらっしやいました。

(辻直四郎, 渡辺照宏 (訳) 『ジャータカ物語』岩波書店・1987)

ここでの「ていらっしやる」は、王さまの遠ざかる移動（視点位置から離れていく移動）を表していることから、<テイク>に解釈される。しかしながら、このような「ていらっしやる」が<テイク>に解釈される例は、1,772 例中、上記の2例に留まっており、極めて限定されていることがわかる。また、上記2例とも同一の翻訳作品の用例である点も留意される点である。

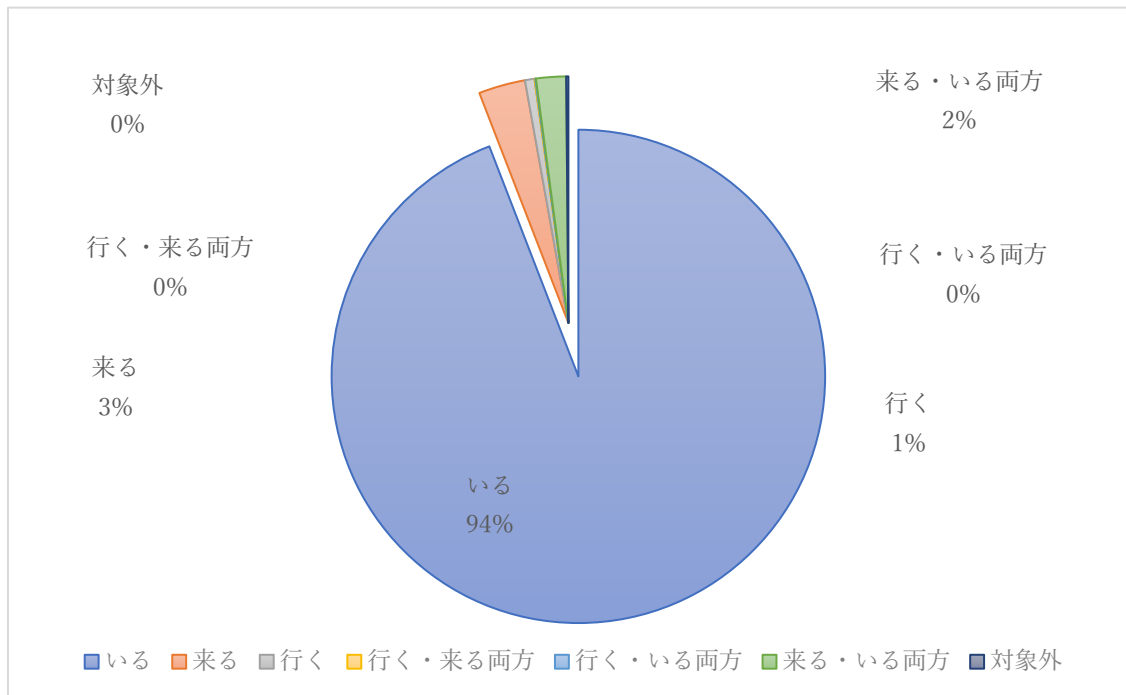
このことは、「ていらっしやる」が<テイク>の意味で使用されることは極めて稀であり、基本的に、「ていらっしやる」の意味領域から<テイク>は排除されていることを示唆するものである。

ここで、本動詞「いらっしやる」についても見ておこう。BCCWJ 内では文字列検索で2,093 件の本動詞「いらっしやる」の例が得られる。これらの例を<イク><クル><イル>のいずれに解釈されるかについて分析を行った。その結果を次の表 4-4 に示す<sup>3</sup>。

---

<sup>3</sup> 以下の3例は、「いらっしやる」の辞書的意味の解釈をめぐる例であったため、対象とする例文からは除いた。

表 4-4 「いらっしゃる」が例文で使用される場合  
「行く」「来る」「いる」の割合



ここでの内訳の数値を改めて示すと次の通りとなる。

- (94) a. 「行く」の解釈ができる例文は 13 件、全体の約 0.62%  
 b. 「来る」の解釈ができる例文は 65 件、全体の約 3.11%  
 c. 「いる」の解釈ができる例文は 1,969 件、全体の約 94.01%

(i) 「申される」と同様の誤用である。2。「いらっしゃる」。「いる」「ある」「来る」「行く」の尊敬語。

(Yahoo!ブログ・Yahoo!・2008)

(ii) また「～である」「～だ」を、「～でいらっしゃる」ともいう。3は敬語ではない。

(Yahoo!ブログ・Yahoo!・2008)

(iii) 特殊な形を覚えるお越しになる／ご覧になる／召し上がる／くださる／いらっしゃる／おっしゃる謙譲語・自分の行為を、「お～する」「ご～する」の形にする

(『ナースのための実践会話術 2(トレーニング編)』田中浩史|著・桐書房・2004)

- d. 「行く」と「いる」両方の解釈ができる例文は1件、全体の約0.05%
- e. 「来る」と「いる」両方の解釈ができる例文は41件、全体の約1.96%
- f. 「行く」と「来る」両方の解釈ができる例文は1件、全体の約0.05%
- g. 対象外の例文は3件、全体の約0.14%

一般に、「いらっしゃる」は、<イク><クル><イル>の尊敬語とされるが、実際の使用においては、大きな偏りが見られることがわかる。すなわち、BCCWJに現れる本動詞「いらっしゃる」では、「イル」に解釈される例が最も多く、次に「クル」に解釈される例が続くが、「イク」に解釈される（「イク」の解釈の確例）は、全体の約0.57%（12例）に留まっており、基本的に、先に見た補助動詞「ていらっしゃる」の分布と相似している。

水谷（2005）は、文学作品の用例調査およびアンケート調査の結果をもとに、「<行く><来る><いる>を表す敬語動詞は、語源の意味から、意味領域を拡張させるが、それはそのまま維持されるのではなく、<行く>を表さなくなる方向へ縮小するという、変化の一つの流れがある」点を指摘しているが（第1章参照）、本研究の調査結果は、この水谷（2005）の調査結果と軌を一にしていると見ることができる。

以下、用例を挙げておこう。

以下は、<イル>に解釈される本動詞「いらっしゃる」の例である。

- (95) 「夜風は、体に良くありません。まだしばらくそこにいらっしゃるの  
でしたら、お召し下さい」

(眉村卓(著)『迷宮物語』角川書店・1986)

- (96) 「でもまあ、世の中には、いろいろなおかあさんがいらっしゃるから。」  
「わらいごとではありません、園長先生。」

(浜たかや(著)大古尅己(絵)『おばあちゃん宇宙へいく』

偕成社・1986)

(97) 気をつけて下さいね。カトリック神父である私とつき合うことは、プロテスタントでいらっしゃる先生にとっては危ないことではないでしょうか」

(ホセ・ヨンパルト (著) 『カトリックとプロテスタントどのように違うか』中央出版社・1986)

(98) 事実上のご両親というものが存在しないわけですし、弟さんがいらっしゃるとしても、あなたとは血のつながりもない。

(小池真理子 (著) 『蠍のいる森』集英社・1987)

(99) 日本でも、それをきちんと押さえて、そういう仕事をやってきた方もいらっしゃるわけです。

(子安美知子, 上松佑二 (著)

『シュタイナー芸術としての教育大教育家を語る』小学館・1988)

(100) わたくしのいとしい夫がきつといらっしゃる夕暮だわ。

(佐竹昭広 (ほか編) 『新日本古典文学大系 5』岩波書店・1989)

以下は、「クル」に解釈される「いらっしゃる」の例である。

(101) 「え？そんな発表ありましたっけ？」「保呂草さんたちがいらっしゃるまえに」「ああ、そうなんだ」保呂草は頷いた。

(森博嗣 (著) 『月は幽咽のデバイス』講談社・2003)

(102) ここは、あなたみたいな人がいらっしゃる場所ではありませんよ。

(金井美恵子(著) 『噂の娘』講談社・2002)

(103) カニューレとか、褥瘡のときの手当てというものは、病院からお医者様がいらっしゃるとか、あるいは開業医の先生がされる。

(佐藤智 (編) 『在宅ケアを考える在宅ケアの真髄を求めて』  
日本評論社・1994)

(104) 病気の方など、いろんな方がいます。1回の土日で、4、5人はいらっしゃるんじゃないですか。そういうケースに対応するのも僕らの仕事ですから

(竹森健太郎(著)『プロジェクト H「福岡 3 点セット」の構造改革』  
朝日新聞社)

(105) 伯爵が襲われた階段に近いというのに。「今ごろいらっしゃるなんて、いったいどちらにいらしてたの？ コラリーは嫌味たらしく訊ねた。

(橘香いくの(著)『カブラルの呪われた秘宝有閑探偵 コラリーとフェリックスの冒険』集英社・1998)

(106) お屋敷に奉公するようになりましてから、そうですね、新しい奥さまがいらっしゃるまでですから、三十年もお仕えいたしましたかしら。

(折原一(著)『異人たちの館』新潮社・1993)

(107) タイムテーブル式で手際よく準備、お客様がいらっしゃるまでにするのは、次のようなことです。まず、前日、オードブルを…

(佐藤よし子(著)

『英国スタイルの家事整理術おしゃれに、すっきり生活』  
PHP 研究所・1999)

一方、以下は、<イク>に解釈される「いらっしゃる」の例である。

(108) それが、彼女だった。「あら、ミキさんでしょう？ どこへいらっしゃるの？ 私、丁度、あなたを訪ねて行こうと思ったところなの」

(山村美紗(著)『不倫家族殺人事件』集英社・1989)

(109) その次の日…」「安息日に、どこへいらっしゃるというのです。聖堂で、お祈りですわ」

(氷室冴子(著)『レディ・アンをさがして』角川書店・1989)

(110) こちらを見た。「今日子さんでしょう？ やっぱりそうだったわ。どちらへいらっしゃるの？」と、梨香はその丸い顔を少し赤くして知り合いに聞いた。

(斎藤栄(著)『飛鳥・神戸殺人旅情』祥伝社・1997)

(111) 謙遜と受け取られるかもしれない。「それで、きょうはこれからど

ちらにいらっしゃるんですか」ウエイトレスがきいてきた。「奥入瀬に行こうと思って…

（『金田一温泉殺人事件』吉村達也（著）講談社・2000）

ここでは、移動の着点が「どこへ」や「どちらに」等で示されていることから、<イク>の意の「いらっしゃる」であることがわかる。

以上のように、本動詞「いらっしゃる」、補助動詞「ていらっしゃる」は、実際の使用においては、<（テ）イル>に解釈される例が最も多く、<（テ）クル>に解釈される例が続くが、<（テ）イク>に解釈される例は限定されていることがわかる。すなわち、補助動詞「ていらっしゃる」における意味領域の偏りは、本動詞「いらっしゃる」における意味領域の偏りと相似しており、基本的に、前者は後者の性質を受け継いでいると見ることができる。すなわち、いずれも、遠心的方向の意味（（テ）イク）が弱いことがわかるのである。

BCCWJ を対象とした本調査の結果では、<イク>に解釈される本動詞「いらっしゃる」は全体の約 0.57%（12 例）であり、<テイク>に解釈される補助動詞「ていらっしゃる」は全体の約 0.11%（2 例）という結果であった。全体の割合から見れば、両者の割合には大きな違いは見られないが、「ていらっしゃる」で見られた 2 例はともに同一の翻訳作品（辻直四郎，渡辺照宏（訳）『ジャータカ物語』岩波書店・1987）の用例であり、特殊な用例である点が留意される。<イク>に解釈される本動詞「いらっしゃる」の場合には、このような意味での特殊性は特に見られない。また、先に紹介した通り、水谷（2005）は、20～30 代では、「行く」の意味での「いらっしゃる」の使用に対して約半数が「違和感がある」というアンケート調査の結果をもとに、「<行く><来る><いる>を表す敬語動詞は、語源の意味から、意味領域を拡張させるが、それはそのまま維持されるのではなく、<行く>を表さなくなる方向へ縮小するという、変化の一つの流れがある」点を指摘しているのであるが、中年層・老年層を中心に、依然として、<イク>の意味で用いる話者もあり、本動詞「いらっしゃる」においては、依然として、<イク>の意味が保持されているという面が見られる。

これらの点を総合的に勘案するならば、補助動詞「いらっしゃる」においては、本動詞「いらっしゃる」以上に、意味領域の縮小が進行している可能性が示唆さ

れる。すなわち、本動詞「いらっしゃる」が補助動詞形「ていらっしゃる」に文法化したことによって、意味領域の縮小がさらに進み、補助動詞「ていらっしゃる」においては、遠心的方向の意味（＜テイク＞の意味）での使用が認められなくなっているという可能性である。

澤田（2015、2020）では、移動動詞「行く／来る」、授与動詞「やる／くれる」などの直示動詞が、本動詞から補助動詞に文法化する中で、視点制約が強まっていく傾向が認められることを、歴史や方言のデータから示している。

（112）直示動詞の視点制約の原則：動詞の素材的意味（移動、授与、等）

が希薄化するにつれ、視点制約が強まり、直示性が先鋭化する。

（澤田 2015: 87）

本章で考察した敬語動詞「いらっしゃる」についても、澤田（2015）の「直示動詞の視点制約の原則」が適用されている可能性がある。すなわち、本動詞形「いらっしゃる」から補助動詞形「ていらっしゃる」へと文法化を遂げ、素材的意味が希薄化したことで、方向性の領域においては、視点制約が強まり、直示性が先鋭化している（すなわち、＜求心的な方向性＞に強く制限されている）可能性が示唆されるのである。

#### 4.4 まとめ

本章では、BCCWJ のデータをもとに、「ていらっしゃる」について考察を行い、主に以下の点を明らかにした。

1. 前項動詞の種類に着目した場合、＜テイル＞に解釈される「ていらっしゃる」は、幅広い種類の前項動詞と共起しており、特定の動詞群への偏りは特に見られないのに対して、＜テクル＞に解釈される「ていらっしゃる」は、限られた種類の動詞とのみ共起している（＜テイク＞に解釈される「ていらっしゃる」は、本調査では「歩く」「帰る」と共起した例のみである）。「てい



らっしゃる」が<テクル>に解釈される場合、その前項動詞と後項動詞「いらっしゃる」との関係は、主に、「同時移動」「継起移動」「移動の方向づけ」の3つに集約される。「同時移動」「継起移動」「移動の方向づけ」の3つは、いずれも「空間的移動」の意味が（多かれ少なかれ）保持された用法である点を踏まえれば、<テクル>に解釈される「ていらっしゃる」は、基本的に「空間的移動」の意味が保持されており、（非敬語形の「てくる」に比べ）意味の抽象化（文法化）が進んでいないことがわかる。

2. 一般に、「ていらっしゃる」は、<テイク><テクル><テイル>の尊敬語とされるが、BCCWJに現れる補助動詞「ていらっしゃる」では、<テイル>に解釈される例が最も多く、次に<テクル>に解釈される例が続くが、<テイク>に解釈される例はほぼ存在しない。基本的に同様の分布の傾向（意味の偏り）は本動詞「いらっしゃる」にも認められるが、補助動詞「いらっしゃる」においては、本動詞「いらっしゃる」以上に、意味領域の縮小が進行していると考えられる。すなわち、本動詞形「いらっしゃる」から補助動詞形「ていらっしゃる」へと文法化を遂げ、素材的意味が希薄化したことで、方向性の領域においては、視点制約が強まり、直示性が先鋭化している（すなわち、<求心的な方向性>に特化している）可能性が示唆されるのである。

## 第 5 章

### 結論

従来、日本語の「ていく」と「てくる」「ている」は、それぞれ、独立した形で研究が進められてきたが、本研究では、これらが敬語形では「ていらっしゃる」に中和する点に着目し、これら三者を一つのセットとして分析することを試みた。具体的には、BCCWJ コーパスを用いた用例調査と Python を用いたデータ処理を分析方法として、現代日本語の「ていく」「てくる」「ている」、及び、その敬語形「ていらっしゃる」の使用実態について、特に、下記の 2 点の課題を設定して、調査・分析を行った。

- (1) 課題 1 : 「ていく」「てくる」「ている」、及び、その敬語形「ていらっしゃる」は、それぞれ、どのような動詞と結びつきやすいのか。

課題 2 : 一般に、「ていらっしゃる」は、<テイク><テクル><テイル>の尊敬語とされるが、実際の使用においてはどうか。

第 1 章では、本研究の研究背景および目的について述べるとともに、先行研究を概観した。従来の研究では、「ている」と「ていく」「てくる」は独立した形で研究が進められてきたが、「ていく」「てくる」「ている」は一つのセットをなしており、これら三者を関連づけて研究を行うことによって、新たな知見が得られることが期待できることを確認した。また、「ていらっしゃる」については詳しい考察はなされていないことから、本研究では、BCCWJ に基づくコーパス調査から「ていらっしゃる」の使用実態を調査することを目標に据えることを確認した。

第2章では、本研究の調査方法と分析方法について論じた。ここでは、国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』を用いた用例検索の方法と Python 言語を用いた処理の方法について論じた。特に、Python 言語を用いた言語処理の方法については、日本語学の研究においてはまだ十分に浸透していないため、その具体的手順について詳細な説明を行った。

第3章では、第2章で示した研究手法によって得られた BCCWJ 内の「ていく」「てくる」「ている」の用例データについて、主に前接動詞の種類に注目して分析を行った。前項動詞の種類に着目した場合、〈テイル〉に解釈される「ていらっしゃる」は、幅広い種類の前項動詞と共起しており、特定の動詞群への偏りは特に見られないのに対して、〈テクル〉に解釈される「ていらっしゃる」は、限られた種類の動詞とのみ共起している点などを明らかにした。

第4章では、第2章で示した研究手法によって得られた BCCWJ の内の敬語形「ていらっしゃる」の用例データについて、前項動詞の種類と意味の偏りの観点から考察を行った。前項動詞の種類に着目した場合、〈テイル〉に解釈される「ていらっしゃる」は、幅広い種類の前項動詞と共起しており、特定の動詞群への偏りは特に見られないのに対して、〈テクル〉に解釈される「ていらっしゃる」は、限られた種類の動詞とのみ共起している点を明らかにした。また、本動詞「いらっしゃる」の調査結果も含めた総合的考察を行い、本動詞「いらっしゃる」、補助動詞「ていらっしゃる」は、実際の使用においては、〈（テ）イル〉に解釈される例が最も多く、続いて、〈（テ）クル〉に解釈される例が続くが、〈（テ）イク〉に解釈される例は限定されている点を明らかにした。

以下、この第5章では、本研究で得られた知見を提示しておきたい。本研究による非敬語形「ていく」「てくる」「ている」、敬語形「ていらっしゃる」の考察から得られた知見は、主に以下の点である。

1. 「ていく」とのみ共起する前項動詞として「走り去る」「通り過ぎる」「去る」などが挙げられるが、これらの動詞は、ある対象から《離れる》という意味を含んでおり、「ていく」に似た意味特徴を有する。「てくる」のみと共起する前項動詞として「込み上げる」「湧き上がる」「押し寄せる」などが挙げられるが、これらの動詞は、ある対象に《近づく》意味を含んでおり、

「てくる」に似た意味特徴を有する。「ている」のみと共起する前項動詞として「潜む」「困る」「待ち合わせる」などが挙げられるが、これらの動詞は、《状態的な動作》を表しており、その意味で「ている」に似た意味特徴を有する。

2. 補助動詞「ていく」「てくる」「ている」の意味は、動詞の意味にただ単純に付加されるのではなく、動詞の本来持っている意味を強化する作用がある。このことは、「ていく」「てくる」「ている」等の状態・移動系のアスペクトの性質は、それが接続する動詞との関係が深いという意味において、テンスやモダリティ形式よりもヴォイスに近い性質を持つ。
3. 前項動詞の種類に着目した場合、＜テイル＞に解釈される「ていらっしゃる」は、幅広い種類の前項動詞と共起しており、特定の動詞群への偏りは特に見られないのに対して、＜テクル＞に解釈される「ていらっしゃる」は、限られた種類の動詞とのみ共起している（＜テイク＞に解釈される「ていらっしゃる」に前接する動詞はさらに限定される）。「ていらっしゃる」が＜テクル＞に解釈される場合、その前項動詞と後項動詞「いらっしゃる」との関係は、主に、「同時移動」この分類に当てはめて考えてみた場合、「ていらっしゃる」が「テクル」に解釈される場合、その前項動詞と後項動詞「いらっしゃる」との関係は、主に、「同時移動」「継起移動」「移動の方向づけ」の3つに集約される。「同時移動」「継起移動」「移動の方向づけ」の3つは、いずれも「空間的移動」の意味が（多かれ少なかれ）保持された用法である点を踏まえれば、＜テクル＞に解釈される「ていらっしゃる」は、基本的に「空間的移動」の意味が保持されており、（非敬語形の「てくる」に比べ）意味の抽象化（文法化）が進んでいないことがわかる。
4. 一般に、「ていらっしゃる」は、＜テイク＞＜テクル＞＜テイル＞の尊敬語とされるが、BCCWJに現れる補助動詞「ていらっしゃる」では、＜テイル＞に解釈される例が最も多く、次に＜テクル＞に解釈される例が続くが、＜テイク＞に解釈される例はほぼ存在しない。基本的に同様の分布の傾向（意味の偏り）は本動詞「いらっしゃる」にも認められるが、補助動詞「いらっしゃる」においては、本動詞「いらっしゃる」以上に、意味領域の縮小が進行していると考えられる。すなわち、本動詞形「いらっしゃる」から補助動

詞形「ていっしやる」へと文法化を遂げ、素材的意味が希薄化したことで、方向性の領域においては、視点制約が強まり、直示性が先鋭化している（すなわち、＜求心的な方向性＞に特化している）可能性が示唆されるのである。

従来、「ていく・てくる」と「ている」は、それぞれ独立して研究される傾向にあったが、これら3つは、敬語形では「ていっしやる」という同一の語形で示されるように、単なる表面上の一致以上のものがある。本研究では、「ていく」「てくる」「ている」、及び、その敬語形「ていっしやる」を同一平面上で記述・分析することによって、上記に示したような新たな知見を提示した。

「行く」「来る」「居る」の意味が中和する敬語動詞としては、「いっしやる」のほかに「おいで（だ）」がある。今後は、「おいで（だ）」も分析対象とすることで、上記3、4に示した傾向が「おいで（だ）」においても認められるのかについて考察していきたい。

## 謝辞

本研究をまとめるにあたり、多くの方々にご助力いただきましたことを、心より感謝申し上げます。なかでも、研究に対する姿勢や論文の書き方について、一からご指導くださった前指導教員である近藤泰弘先生には、どれほど言葉をつくしても感謝の気持ちを十分に表すことはできないほど、お世話になりました。ありがとうございます。ときに、言語学は様々な視点から一つの言語に関して考察を行わなければなりません。これらについてもご教授くださったことに対して、重ねて感謝いたします。先生にご指導いただいた数多くの時間は、私にとっての生涯の宝ものとなりました。この6年間を糧として、これからの研究生活においても、努力を重ねていきたいと思えます。また、在学6年目からは澤田淳先生に指導教員として引き継いでいただきました。先生には、学科主任としてご多忙の中にもかかわらず、休日を含め、お時間を惜しまずに、ご指導いただきました。ここに深く感謝申し上げます。田中祐輔先生、大江元貴先生には本論文の作成にあたり、副査として多くの有益なご助言を賜りました。ここに深謝の意を表します。

修士課程では、法政大学の尾谷昌則先生からご指導を仰ぐことができました。先生には、研究方法や研究の独自性の示し方などについて、進むべき道をふまえてご指導いただきました。心より御礼を申し上げます。

最後になりましたが、ここに至るまでの間、休日も家にこもり続けた私を、見守り、支え続けてくれた息子、そして、遠くの空より祈り続けてくれた母と、これまで私をあたたく応援してくれた父に、心より感謝します。ありがとうございます。

## 参考文献

- 大江三郎（1975）『日英語の比較研究-主観性をめぐって』南雲堂
- 金田一春彦（1950）「国語動詞の一分類」『言語研究』15. pp.48-63.東大言語学  
研究室会
- 金田弘（1952）「東京語における「れる型」敬語の性格」『日本文学論究』10,  
pp.21-31. 国学院大学文学会
- 金水敏（2004）「敬語動詞における視点中和の原理について」『文法と音声IV』  
pp.181-192.くろしお出版
- 金水敏（2010）「「敬語優位から人称性優位へ」再考」『語文』92-93:pp.74-80.  
大阪大学国語国文学会
- 久野暉（1975）『日本文法研究』大修館書店
- 久野暉（1978）『談話の文法』大修館書店
- 近藤泰弘（1986）「敬語の一特質」築島裕博士還暦記念会(編)『築島裕博士還暦  
記念国語学論集』pp. 85-104. 明治書院
- 近藤泰弘（2000）『日本語記述文法の理論』ひつじ書房
- 澤田淳（2014）「日本語の授与動詞構文の構文パターンの類型化—他言語との比  
較対照と合わせて—」『言語研究』145: pp. 27-60. 日本言語学会
- 澤田淳（2015）「ダイクシスからみた日本語の歴史—直示述語、敬語、指示詞を  
中心に—」加藤重広（編）『日本語語用論フォーラム1』pp. 57-100. 東京:  
ひつじ書房
- 澤田淳（2016）「「行為の方向づけ」の「てくる」の対照言語学的・歴史的研究  
—移動動詞から受影マーカ—」小野正樹・李奇楠（編）『言語の主観性  
—認知とポライトネスの接点—』pp. 87-110. 東京: くろしお出版.
- 澤田淳（2018）「日本語の直示移動動詞の選択原理について—「行く／来る」の  
選択はどのようにして決まるのか?—」『言語文化研究 久保進教授記念号』  
38 (1-2) : pp.237-290. 松山大学総合研究所
- 澤田淳（2020）「日本語の直示授与動詞「やる／くれる」の歴史」『国立国語研  
究所論集』18: pp.149-180. 国立国語研究所

- 田邊和子・小池恵子（2020）「敬語の簡素化と明晰化―「いらっしゃる」と「い  
かれる」の教科書記述と使用実態について―」『国文目白』 59: pp. 104-121.  
日本女子大学国語国文学会
- 日高水穂（2009）「敬語と授与動詞の運用に関わる現場性制約―日本語諸方言の  
対照研究の観点から―」『日本語文法』 9(2):pp. 3-18. 日本語文法学会
- 拜尔娜塔依尔（2022）「現代日本語の「ていらっしゃる」とその非敬語形」『緑  
岡詞林』 第 46 号. pp.1-17. 青山学院大学日本文学科院生の会
- 水谷美保（2005）「イラッシャル」に生じている意味領域の縮小」『日本語の研究』  
1 (4): pp. 32-46. 日本語学会
- 森田良行（1994）『動詞の意味論的研究』 明治書院



## 関連 URL

Wikipedia

<https://ja.wikipedia.org/wiki/Python>

現代日本語書き言葉均衡コーパス

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>

現代日本語書き言葉均衡コーパス検索アプリケーション「中納言」

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/login>

Colaboratory

<https://colab.research.google.com/notebooks/intro.ipynb?hl=ja>

国立国語研究所学術情報リポジトリ

[https://repository.ninjal.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=3235&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=21](https://repository.ninjal.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=3235&item_no=1&page_id=13&block_id=21)

付録「ていく」「てくる」「ている」全体割り算結果

No.	ていく語彙表	割り算結果	てくる語彙素	割り算結果	ている語彙表	割り算結果
1	連れる	0.3041067	込み上げる	0.7068146	待ち構える	0.7681499
2	遠ざかる	0.236478	湧き上がる	0.3859649	持ち合わせる	0.7335984
3	のめり込む	0.2255892	押し寄せる	0.3535076	備わる	0.6469595
4	駆ける	0.2235294	跳ね返る	0.3347639	待ち受ける	0.6055046
5	走り去る	0.2147651	飛び込む	0.3099357	物語る	0.5612145
6	通り過ぎる	0.2127139	返る	0.296218	潜む	0.5564516
7	遠退く	0.20059	沸く	0.2952804	ぶら下がる	0.4745098
8	突き詰める	0.1991342	浮かび上がる	0.280654	満ち溢れる	0.472
9	薄れる	0.1799163	押し掛ける	0.2727273	心得る	0.4456654
10	吹き抜ける	0.1699029	伝わる	0.2718129	思い込む	0.4444444
11	突き進む	0.1666667	押し掛かる	0.2633333	突き立つ	0.4430052
12	駆け抜ける	0.1642229	降り懸かる	0.2527076	長ける	0.4334365
13	去る	0.1632966	撞げる	0.2379032	出回る	0.4324853
14	切り開く	0.1538462	出る	0.2337196	滲み出る	0.4298507
15	積み重ねる	0.1495935	戻る	0.2329591	横たわる	0.4171171
16	擦り抜ける	0.1462585	襲い掛かる	0.2317263	散らばる	0.4128035
17	走り抜ける	0.1434599	近寄る	0.2290249	欠ける	0.4092059
18	駆け下りる	0.1383929	聞こえる	0.2224893	住む	0.4012294
19	飛び掛かる	0.1367521	湧き出る	0.2222222	佇む	0.3872054
20	繋げる	0.1272124	忍び寄る	0.2121212	残る	0.3858168
21	追い抜く	0.1157895	引越す	0.2108779	転がる	0.3802705
22	攫う	0.1136891	孵る	0.2093704	似る	0.379199
23	押し進める	0.1084071	流れ込む	0.2084592	突き出る	0.3791209
24	更ける	0.1071429	這い上がる	0.2061404	見入る	0.3786982
25	旅立つ	0.1070664	突き上げる	0.2056075	焼き付く	0.372
26	消える	0.1070209	近付く	0.2047733	立ち尽くす	0.3712121
27	切り込む	0.106383	駆け込む	0.2040134	目論む	0.3709677
28	飛ぶ	0.1063526	訪ねる	0.1982489	企む	0.3705722
29	進める	0.1032347	駆け寄る	0.192053	間違う	0.3674222
30	沈む	0.0997442	築き上げる	0.1883657	蠢く	0.3658537

31	掘り下げる	0.0996016	溢れ出る	0.1840796	写る	0.3644444
32	生きる	0.0993512	蘇る	0.1822266	静まり返る	0.3598326
33	深まる	0.0992063	抱き付く	0.1752336	飛び回る	0.3504902
34	駆け出す	0.0960591	培う	0.1730104	飼う	0.3477199
35	下りる	0.0936134	割り込む	0.1728395	孕む	0.3475936
36	過ぎ去る	0.0934579	飛び掛かる	0.1666667	混む	0.3434226
37	駆け上がる	0.0932476	吹き上げる	0.1649485	蹲る	0.3381443
38	深める	0.0923754	話し掛ける	0.1613217	悩む	0.3361274
39	解れる	0.0923077	寄る	0.1581167	適する	0.3351322
40	萎む	0.0921659	纏わり付く	0.1517241	垂れ下がる	0.3320463
41	飛び立つ	0.0909091	駆ける	0.151634	張り付く	0.331058
42	溶け込む	0.0892495	飛び出す	0.1506386	聳える	0.3287356
43	積み上げる	0.0888031	下りる	0.1497251	埋まる	0.3268999
44	広がる	0.0879636	浮かぶ	0.145803	寝そべる	0.3247232
45	作り上げる	0.087493	駆け付ける	0.1440238	覚える	0.3235268
46	追い越す	0.0845411	解れる	0.1435897	見惚れる	0.3220339
47	広まる	0.0842754	沸き起こる	0.1428571	掛け離れる	0.3183962
48	立ち向かう	0.0841924	連れる	0.1405216	賑わう	0.3178893
49	飛び出す	0.0833959	滲み出る	0.1402985	生える	0.3150022
50	上り詰める	0.0824742	駆け下りる	0.1383929	こびり付く	0.3112583
51	出掛ける	0.0818977	迫る	0.1374847	叩く	0.3111111
52	上る	0.08062	追い掛ける	0.1361661	行き届く	0.3104167
53	作り変える	0.08	吹き付ける	0.1360759	成り立つ	0.3054841
54	歩く	0.0789851	潜り抜ける	0.1353383	立ち込める	0.3037975
55	流れ落ちる	0.078125	浮き上がる	0.1346633	混じる	0.300207
56	強める	0.0772627	飛ぶ	0.1320485	書き残す	0.3
57	広める	0.0767918	生える	0.1306643	弁える	0.2994186
58	散る	0.0759386	襲う	0.1300989	占める	0.2967906
59	増やす	0.0757621	忍び込む	0.1269036	持て余す	0.2966667
60	通り抜ける	0.075188	芽生える	0.1218487	抱える	0.2942051
61	老いる	0.073724	駆け上がる	0.1189711	漲る	0.2938144
62	移る	0.0730594	歩み寄る	0.1157495	醸し出す	0.291866
63	衰える	0.0708571	絡み付く	0.1152263	宿る	0.2914485
64	辿る	0.0704554	帯びる	0.1122715	耽る	0.2910156
65	羽ばたく	0.0701107	飛び付く	0.1122244	秘める	0.2906351
66	立ち去る	0.0699387	嫁ぐ	0.1113537	暮らす	0.2898352

67	煮詰める	0.0692771	乗り込む	0.1110441	愛し合う	0.2893891
68	下る	0.0690241	入り込む	0.1094979	生る	0.2887324
69	盛り上げる	0.0681502	語り掛ける	0.1077655	交じる	0.2872928
70	乗り越える	0.0671543	遣る	0.1061009	空く	0.2864945
71	増す	0.0654889	滑り込む	0.1056701	眺める	0.2850802
72	沈み込む	0.0646766	攻める	0.1038328	彷徨く	0.2849162
73	突っ走る	0.0641509	切り込む	0.1021277	明け暮れる	0.2834646
74	築き上げる	0.0637119	薄れる	0.1018131	苦しむ	0.2799296
75	掠める	0.0635965	集まる	0.1004373	渦巻く	0.2783019
76	引っ張る	0.063434	増える	0.1003711	勤める	0.2711094
77	乗り継ぐ	0.0630252	食いつく	0.0995475	塞がる	0.2684825
78	高める	0.0627216	仕掛ける	0.0987285	通う	0.2676083
79	取り組む	0.0616967	降る	0.0983878	住み着く	0.2663438
80	弱まる	0.0614525	運ぶ	0.0982543	整う	0.2658705
81	進む	0.0611809	吹き込む	0.0978441	震える	0.2644752
82	崩れ落ちる	0.0608365	持ち掛ける	0.0966981	黙る	0.2643257
83	組み立てる	0.0586797	生まれる	0.0945705	生い茂る	0.2619048
84	広げる	0.0583703	慣れる	0.0935754	隠れる	0.2612338
85	流れる	0.0580462	引き返す	0.092925	座る	0.2610496
86	近付く	0.0580426	歩む	0.0920614	呈する	0.2603306
87	出向く	0.0577164	響く	0.0917703	並ぶ	0.2595858
88	消え去る	0.0572207	積み重ねる	0.0894309	流行る	0.2594888
89	這う	0.0571659	冷え込む	0.0889831	捜し求める	0.2583333
90	働き掛ける	0.0571049	煮立つ	0.088968	漂う	0.2581169
91	飛び込む	0.056352	黒ずむ	0.0883721	見詰める	0.2576822
92	横切る	0.0561529	絡む	0.0844914	淀む	0.256917
93	増える	0.0557521	笑い掛ける	0.0836653	考え込む	0.2559682
94	築く	0.0549842	紛れ込む	0.0826446	憧れる	0.2556468
95	染み込む	0.0544554	拾う	0.0824694	分かれる	0.2549711
96	歩む	0.054036	高まる	0.0813029	迷う	0.253513
97	逃げる	0.053457	漲る	0.0798969	ぼやく	0.2531646
98	狭める	0.0530973	問い掛ける	0.0795796	弱る	0.2524683
99	追い詰める	0.0528846	入る	0.0785144	浸る	0.2506266
100	減ぶ	0.052356	落ちる	0.0779424	満ちる	0.2503048
101	抜き出す	0.0522088	携える	0.0747863	連ねる	0.25
102	溶ける	0.0514665	切り抜ける	0.0736434	根付く	0.25
103	近寄る	0.0510204	買う	0.0735613	馬鹿げる	0.2488987

104	切り抜ける	0.0503876	増す	0.0731039	上回る	0.2488608
105	繋がる	0.0502771	漂う	0.0730519	持ち歩く	0.2471655
106	伝う	0.0498915	火照る	0.0728477	下回る	0.2447257
107	生き残る	0.0496838	漏れる	0.0715532	結び付く	0.2444541
108	萎える	0.0494297	上がる	0.0713218	立ちはだかる	0.2439863
109	近付ける	0.0494253	群がる	0.0708215	飛び交う	0.2428256
110	絞り込む	0.0492754	流れ出る	0.0707692	見守る	0.2417383
111	引き上げる	0.0489197	剥げる	0.0693069	決まる	0.2416711
112	潜り抜ける	0.0488722	強まる	0.0690559	達する	0.2410429
113	攀じ登る	0.0487805	流れる	0.0687909	患う	0.24
114	落ちる	0.048727	飽きる	0.0685015	さ迷う	0.2397476
115	引き返す	0.0485744	立ち上る	0.068038	立ち並ぶ	0.2387218
116	訪ねる	0.0481551	仕入れる	0.06743	待つ	0.2385143
117	助け合う	0.0480226	鈍る	0.0671378	病む	0.2384615
118	膨らむ	0.0479452	集う	0.066778	走り回る	0.2383041
119	織り込む	0.0477612	しがみ付く	0.0665742	立ち竦む	0.2382812
120	転がる	0.0477327	攫う	0.0649652	灯る	0.2378753
121	突き抜ける	0.0474308	痺れる	0.0647619	博する	0.2372263
122	強まる	0.0472028	吹き出す	0.0636663	浮かれる	0.2362869
123	崩れる	0.046729	差し込む	0.062966	優れる	0.2353298
124	追い掛ける	0.0463544	回る	0.0628704	埋もれる	0.2351885
125	育む	0.0462555	買い込む	0.0627615	言い合う	0.2328767
126	育てる	0.046098	染み込む	0.0627063	思い描く	0.2311436
127	支え合う	0.0454545	高ぶる	0.0627063	差さる	0.2309859
128	朽ちる	0.044843	生き延びる	0.0622896	ずれる	0.2296015
129	詰める	0.0448259	ぼやける	0.0619835	留まる	0.2290679
130	減る	0.0445933	移り住む	0.0617284	燥ぐ	0.2288557
131	平らげる	0.044	色付く	0.0608696	励む	0.2283465
132	出る	0.0439928	追い付く	0.0605096	向く	0.2256141
133	過る	0.0438931	育つ	0.0603512	適う	0.225
134	生き延びる	0.043771	見える	0.0598425	籠もる	0.2248775
135	導く	0.0437393	膨れ上がる	0.0597345	伸び悩む	0.2245614
136	駆け込む	0.0434783	減る	0.0591388	揃う	0.2222566
137	踏み込む	0.0431267	剥がれる	0.058296	動き回る	0.2222222
138	揺られる	0.0430622	繰り出す	0.0580645	生やす	0.2222222
139	重ねる	0.0424859	縮まる	0.0580357	仕上がる	0.2220566

140	熟す	0.042437	突き込む	0.0574118	腰掛ける	0.2204819
141	持つ	0.0423339	嘯み付く	0.0573248	混ざる	0.2204082
142	減らす	0.0422648	携わる	0.057309	居座る	0.2200772
143	伸びる	0.0416139	上る	0.0569804	溢れる	0.2191214
144	探る	0.0409836	匂う	0.0565771	涙ぐむ	0.2190083
145	形作る	0.0407767	弛む	0.056391	もがく	0.2182741
146	育つ	0.0405639	突き刺さる	0.056266	揺れる	0.218166
147	漕ぐ	0.0403101	申し入れる	0.0558659	生きる	0.2171008
148	積み立てる	0.0401146	追う	0.0553884	嘆く	0.2166489
149	変える	0.0398222	伸びる	0.0553646	眠る	0.2164598
150	高まる	0.0397538	越す	0.0545035	陣取る	0.2159091
151	回る	0.0391898	遂げる	0.054326	高まる	0.2156963
152	上がる	0.0389588	追い求める	0.0536585	控える	0.215311
153	募る	0.0385005	弱る	0.0535966	紛れ込む	0.214876
154	引き摺る	0.037703	借りる	0.0534247	持つ	0.2147451
155	仕向ける	0.0376569	続ける	0.0526588	立つ	0.2131162
156	膨れ上がる	0.0376106	くっ付く	0.0523897	根差す	0.2125984
157	離れる	0.0373964	腫れる	0.0519481	見落とす	0.2124711
158	仕上げる	0.0371336	深まる	0.0515873	怯える	0.2116071
159	付き添う	0.037037	流れ出す	0.0515152	染まる	0.2093719
160	張り切る	0.0366379	踏み込む	0.0512129	滞る	0.2091255
161	食い込む	0.0365854	滲む	0.0506912	強まる	0.2089161
162	遡る	0.0365206	持ち出す	0.050578	乗る	0.2085412
163	熟する	0.0363128	投げ掛ける	0.050571	担う	0.2078775
164	縮む	0.0362694	弱まる	0.0502793	働く	0.2072861
165	寄る	0.0361911	押し付ける	0.0497326	恵まれる	0.2066806
166	抜ける	0.0360771	汲む	0.0494253	口ずさむ	0.2064777
167	暮らす	0.0360577	締め付ける	0.0487805	腫れる	0.2061688
168	紡ぐ	0.036036	食い込む	0.0487805	定まる	0.2056962
169	暮れる	0.0359147	詰め掛ける	0.0487805	夢見る	0.2055336
170	諮る	0.0358566	変わる	0.0486175	履く	0.2050625
171	傾く	0.0355556	突き進む	0.0484848	閉じ籠もる	0.2048998
172	突き込む	0.0352941	衰える	0.048	纏わり付く	0.2034483
173	泊まる	0.0352893	逃げ込む	0.0478589	群れる	0.2033195
174	滑る	0.0352679	緩む	0.0473301	駆け回る	0.203252
175	ずらす	0.0351494	掻き集める	0.0471698	落ち込む	0.203125

176	這い上がる	0.0350877	持ち上がる	0.046832	くっ付く	0.2022059
177	追い込む	0.0350448	現われる	0.0468019	備える	0.2016761
178	埋める	0.0345357	吹く	0.0459994	売る	0.2014444
179	付き合う	0.0342551	冷える	0.0456853	合わせ持つ	0.2013889
180	養う	0.0341365	透き通る	0.0455927	輝く	0.2002119
181	染まる	0.0338983	盛り上がる	0.0455083	飢える	0.2
182	孵る	0.033675	送る	0.0453935	携わる	0.1993355
183	押し掛ける	0.0334928	膨らむ	0.0453109	心掛ける	0.1988439
184	老ける	0.0334928	突っ走る	0.045283	張り詰める	0.1987952
185	流れ込む	0.0332326	集る	0.0452489	締まる	0.1983395
186	下がる	0.0330923	引き連れる	0.0451389	群がる	0.1983003
187	当て嵌める	0.0330882	持つ	0.0450749	付き添う	0.1981481
188	逸れる	0.0330579	惚ける	0.0447761	絡み合う	0.1976744
189	役立てる	0.0329897	更ける	0.0446429	抱く	0.1968527
190	走る	0.0327009	乗り越える	0.0445479	甘んずる	0.195572
191	見守る	0.0325939	駆け出す	0.044335	愛する	0.1954771
192	なぞる	0.0325203	進み出る	0.0442804	浮く	0.1949541
193	縮める	0.032491	草臥れる	0.044164	流れる	0.194887
194	結び付ける	0.0323034	和らぐ	0.0439883	映る	0.1948276
195	死ぬ	0.0322119	浮く	0.043578	溶け込む	0.1947262
196	携える	0.0320513	送り返す	0.0432692	着る	0.1941197
197	努める	0.0320419	挑む	0.0432544	光る	0.1935807
198	静まる	0.0319767	移る	0.0432447	滲む	0.1935484
199	落ち込む	0.031901	詰め寄る	0.0430622	差し掛かる	0.1920415
200	食い付く	0.0316742	手掛ける	0.0430328	偏る	0.1918195